

科目名	社会福祉論A		科目コード	W31023		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-01H			30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	社会福祉の原理(1)		社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。						講義・Think pair share		
第2回	社会福祉の原理(2)		社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。						講義・Think pair share		
第3回	社会福祉の歴史(1)		政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。						講義・Think pair share		
第4回	社会福祉の歴史(2)		日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。						講義・Think pair share		
第5回	社会福祉の歴史(3)		欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。教育法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。						講義・Think pair share 社会福祉の原理・歴史についての小テスト		
第6回	社会福祉の思想と哲学		社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。						講義・Think pair share レポート課題提示		
第7回	社会福祉の理論(1)		戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。						講義・Think pair share		
第8回	社会福祉の理論(2)		社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。						講義・Think pair share		
第9回	社会福祉の理論(3)		社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とパターンリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。						講義・Think pair share		
第10回	社会問題と社会構造(1)		貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。						講義・Think pair share		
第11回	社会問題と社会構造(2)		少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。						講義・Think pair share レポート課題提出		
第12回	社会福祉政策の基本的な視点		社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。						講義・Think pair share 社会福祉理論・政策に関する小テスト		
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは		ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。						講義・Think pair share		
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の関係		社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の関係についても考える。						講義・Think pair share		
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						講義		
授業方法(レクチャー、グループワーク、ディスカッション等)	授業中のノート取り		クイズ、小テスト	資料記入	ペアワーク	誘導ディスカッション					
評価方法及び評価基準	<p>出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。</p>										
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。レポート課題は、TEAMS上で提示し、TEAMSにより提出する。										
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教科書参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2025)『社会福祉の原理と政策 第2版』弘文堂(ISBN 2025年1月現在 未定) 参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)										
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。										

科目名	社会福祉論B		科目コード	W31024	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-02H		30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 久			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解すると共に、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解できる。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。さらに、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性についても理解できる。									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	福祉政策の構成要素(1)		福祉政策の構成要素とその役割・機能について学ぶ。また、政府・市場・事業者・国民との関係性についても学ぶ。							
第2回	福祉政策の構成要素(2)		措置制度と契約制度、多元化する福祉サービス提供方式について学ぶ。							
第3回	福祉政策の過程(1)		政策決定と実施及び評価について学ぶ。また、福祉政策の方法と手段についても学ぶ。							
第4回	福祉政策の過程(2)		福祉政策の政策評価と行政評価について学ぶ。また、福祉政策と福祉計画の関係性についても学ぶ。							
第5回	福祉政策の動向(1)		社会福祉法の特徴と近年の法改正の動向を学ぶ。また、地域包括包括ケアシステムについても学ぶ。							
第6回	福祉政策の動向(2)		地域共生社会について学ぶ。また、多文化共生と持続可能性(SDGs等)と社会福祉の関係性についても学ぶ。						福祉政策に関する小テスト	
第7回	福祉政策の課題(1)		社会包括ケアシステムと共生社会、多文化共生、貧困者、高齢者の政策課題について学ぶ。							
第8回	福祉政策の課題(2)		障害者と児童関連の政策課題について学ぶ。							
第9回	福祉政策と関連施策		保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策と福祉政策の関係性について学ぶ。							
第10回	福祉サービスの供給、利用とソーシャルワーク(1)		福祉サービスの供給主体と連携について学ぶ。							
第11回	福祉サービスの供給、利用とソーシャルワーク(2)		福祉サービスの供給過程とソーシャルワーク(公私関係・細分配と割当・市場、準市場)について学ぶ。						福祉サービスの供給に関する小テスト	
第12回	福祉サービスの供給、利用とソーシャルワーク(3)		福祉サービスの供給過程とソーシャルワーク(福祉行財政・福祉計画・福祉開発とソーシャルワーク)について学ぶ。							
第13回	福祉サービスの供給、利用とソーシャルワーク(4)		福祉サービスの利用過程(スティグマ、シティズンシップ)について学ぶ。							
第14回	福祉政策の国際比較		国際比較の視点を学ぶ。とくに、欧米・東アジアの福祉政策の特徴を学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
授業方法(付 録D、P91 P92等)	クイズ、小テスト	誘導ディスカッション	ディベート							
	第6回と第11回には、小テストを実施する。第7・8回の福祉政策の課題について隣の学生と誘導ディスカッション。第13回はスティグマやシティズンシップについてディベートを取り入れる。									
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、2回の小テスト定期試験を80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に隣の学生とディスカッションやディベートをさせ、意見を求める。レポート提出や小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂 978-4-335-61209-1 参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房) 978-4-623-09041-9									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	キリスト教社会福祉論		科目コード	W31002		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-03H			30時間				
区分	社会福祉系列科目	必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教など知らなくても社会福祉は学べるのではないかと考えている人たちに社会福祉の基本精神や基盤となる事柄をキリスト教や宗教という視点と観点から考えてもらいたいと願っている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 3-1, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>1. 思うこと、感じること、考えることを大事にする。</p> <p>2. 「自分だったらどうか」「自分ができることは何か」という観点を持てるようになる。</p> <p>3. 聖書やキリスト教、宗教と社会福祉がどのように関係しているのかを学ぶ。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	オリエンテーション		どういふことを目指したいか、担当者の思いや願い								
第2回	キリスト教・宗教の基本		宗教とはどのようなものか、またキリスト教とは何か								
第3回	聖書から考える：愛について		愛とは何か考えてみる								
第4回	聖書から考える：ゆるしについて		ゆるしとは何か考えてみる								
第5回	聖書から考える：病気といやし		病気といやしについて考える								
第6回	聖書から考える：奉仕について		奉仕について考える							レポート提出	
第7回	福祉を考える：宗教と福祉の関係		キリスト教以外の宗教も含めて福祉をどう考えているか学ぶ								
第8回	福祉を考える：差別と人権（1）		人権を侵すものとして差別とは何かを学ぶ 部落差別や出自による差別など								
第9回	福祉を考える：差別と人権（2）		同上。ジェンダーや性差別、LGBTQなど								
第10回	福祉を考える：差別と人権（3）		同上。外国人差別や先住民差別など							レポート提出	
第11回	いのちを考える：生と死（1）		出生前診断や人工妊娠中絶など生命のはじまりを巡る問題								
第12回	いのちを考える：生と死（2）		優生思想、津久井やまゆり園事件やナチス・ドイツの行為を学ぶ								
第13回	いのちを考える：生と死（3）		HIV／エイズについて								
第14回	共存と共生のために		多様性を学ぶことで豊かな社会をつくることを考える								
第15回	キリスト教的倫理観の構築		これまでの学びからポイントを復習							レポート提出	
授業方法 (ゼミ、グループワーク等)	授業中のノート取り	グループワーク	ペアワーク	誘導ディスカッション							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>講義の参加・出席態度40%、レポート3回60%で評価する。</p> <p>レポートは講義の感想も含めた自分の意見をA4一枚程度で論述してもらう。</p>										
課題等	講義時に指示する。レポート提出を3回求める。										
事前事後 学修	調べ学習を取り入れる予定。講義時に指示したことは予習復習として行う。週あたり3時間以上が望ましい。										
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳の聖書で新約聖書・旧約聖書入っていればどのサイズでも良い（入学時購入者は新共同訳である）。 ノートは各自準備。必要に応じてプリントなど資料を配付する。										
留意点	宗教学ABと多少重なる部分があることが想定される。 受講者及び担当者の状況によっては多少の変更を加えることもある。										

科目名	ソーシャルワーク総論A		科目コード	W31005		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-04H			30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)		社会福祉士及び介護福祉士法による社会福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。							講義	
第2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)		精神保健福祉士による精神保健福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。							講義、グループワーク	
第3回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(3)		社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について学ぶ。							講義 レポート課題	
第4回	ソーシャルワークの概念		ソーシャルワークの定義、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学ぶ。							講義、グループワーク	
第5回	ソーシャルワークの原理(1)		社会正義、人権尊重について学ぶ。							講義、グループワーク	
第6回	ソーシャルワークの原理(2)		集団的責任、多様性の尊重について学ぶ。							講義	
第7回	ソーシャルワークの理念(1)		当事者主権、尊厳の保持について学ぶ。							講義	
第8回	ソーシャルワークの理念(2)		権利擁護、自立支援について学ぶ。							講義	
第9回	ソーシャルワークの理念(3)		ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。							講義	
第10回	ソーシャルワークの形成過程(1)		事前組織協会、セツルメント運動について学ぶ。							講義 レポート課題	
第11回	ソーシャルワークの形成過程(2)		医学モデルから生活モデルへの転換、ソーシャルワークの統合化について学ぶ。							オンデマンド授業	
第12回	ソーシャルワークの倫理(1)		専門職倫理の概念について学ぶ。							講義、グループワーク	
第13回	ソーシャルワークの倫理(2)		倫理綱領とは、ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。							講義	
第14回	ソーシャルワークの倫理(3)		精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマについて学ぶ。							講義、グループワーク	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							講義、グループワーク	
授業方法(4) ディプロマ・7対1 ブレンド等	ペアワーク	グループワーク									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価します。 定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価します。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求めます。 リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価します(配点は1回1点とし、各項目で半分以上記載されていない場合は評価対象としません)。 レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価します。</p>										
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問について、講義内でコメントを返します。										
事前事後 学修	<p>講義時にて、次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習ください。 授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行ってください。 準備学習時間の目安：週当たり3時間。</p>										
教材 教科書 参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2										
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待します。 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてください。 オンデマンド授業は、指定された期間にチームス上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 Teamsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受け付けます。 										

科目名	ソーシャルワーク総論B		科目コード	W31006		単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-05H		時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業	講義	単独	
	社会福祉士指定科目	必修						形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1,5-2,5-3に関連している。</p>										
到達目標	①社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲			ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ。						講義	
第2回	社会福祉士の職域(1)			行政関係、福祉関係(高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域)について学ぶ。						講義、グループワーク	
第3回	社会福祉士の職域(2)			医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等と社会福祉士の職域拡大について学ぶ。						講義 レポート課題	
第4回	福祉行政における専門職			福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等について学ぶ。						講義	
第5回	民間の施設・組織における専門職			施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療系ソーシャルワーカー等について学ぶ。						講義	
第6回	諸外国の動向			欧米諸国の動向、その他諸外国における動向について学ぶ。						講義	
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象			ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。						講義	
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。支援の実際について学ぶ。						講義	
第9回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意味と内容			多機関による包括的支援体制、その実際について学ぶ。						オンデマンド授業	
第10回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(1)			フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制について学ぶ。						講義、グループワーク	
第11回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(2)			ソーシャルサポートネットワークングについて学ぶ。						講義、グループワーク	
第12回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(1)			多職種連携及びチームアプローチの意義について学ぶ。						講義 レポート課題	
第13回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(2)			機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。						講義、グループワーク	
第14回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(3)			利用者、家族の参画について学ぶ。						講義、グループワーク	
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						講義、グループワーク	
授業方法(オンデマンド、ライブ授業、グループワーク等)	ペアワーク	グループワーク									
評価方法及び評価基準	講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価します。 定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価します。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求めます。 リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価します(配点は1回1点とし、各項目で半分以上記載されていない場合は評価対象としません)。 レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価します。										
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問について、講義内でコメントを返します。										
事前事後学修	講義時にて、次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習ください。 授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行ってください。 準備学習時間の目安：週当たり3時間。										
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2										
留意点	・教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待します。 ・社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてください。 ・オンデマンド授業は、指定された期間にチームス上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 ・Teamsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受け付けます。										

科目名	社会福祉発達史 A		科目コード	W31009	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-06	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 教職科目（高一種【公民】）	選択 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	講義計画、社会福祉の歴史の全体像			日本における社会福祉の歴史の流れを説明する						
第2回	前近代における社会福祉の歴史			日本における前近代の社会福祉の歴史を概観する						
第3回	恤救規則			明治維新と恤救規則					文献複写	
第4回	特別救護立法			恤救規則以外の救済制度					文献複写	
第5回	救済事業の展開			救済事業における二つの流れ、窮民救済					文献複写	
第6回	慈善事業			近代日本における慈善事業					文献複写	
第7回	児童保護事業			明治期の育児施設について					文献複写	
第8回	熊本バンド・「北海道バンド」			感化事業・感化院創設・監獄改良事業					文献複写	
第9回	感化救済事業			感化救済事業における実践					文献複写	
第10回	救済と慈善の思想			慈恵主義、慈善事業思想の諸相					文献複写	
第11回	救貧法制構想			恤救規則の改正案					文献複写	
第12回	慈善事業の発展			慈善事業ほ本格化					文献複写	
第13回	児童保護事業の展開			児童保護事業における諸実践					文献複写	
第14回	養老事業の形成			高齢者領域の取り組み					文献複写	
第15回	慈善事業・慈善組織化の時代のまとめ			前期中の講義で取り上げた内容の整理						
授業方法(フ ォーム、75分 ブ・トレーニング等)	小テスト・文献講読									
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す。文献複写をしたら、辞書を引いて読んでおくこと。									
事前事 後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之(1931)『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著(1973)『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材 教科書 参考書	池田敬正(1994)『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著(2006)『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会福祉発達史B		科目コード	W31010		単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-07		時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	慈善事業の組織化と社会化		慈善事業がもつ社会的役割と中央慈善協会結成以降の組織化について						文献複写		
第2回	社会事業①		社会調査と社会問題論						文献複写		
第3回	社会事業②		社会連帯論						文献複写		
第4回	社会事業③		社会事業理論の展開						文献複写		
第5回	社会事業④		救済事業調査会						文献複写		
第6回	社会事業⑤		社会事業行政						文献複写		
第7回	社会事業⑥		方面委員・済世顧問制度						文献複写		
第8回	社会事業⑦		経済保護事業						文献複写		
第9回	社会事業⑧		児童保護の進展、医療保護とセツルメント						文献複写		
第10回	社会事業⑨		救護法の成立						文献複写		
第11回	戦時厚生事業①		戦時厚生事業期について						文献複写		
第12回	戦時厚生事業②		戦時下の健民健兵政策、厚生事業理論						文献複写		
第13回	戦後日本の社会福祉①		戦後社会と福祉改革						文献複写		
第14回	戦後日本の社会福祉②		社会福祉諸法の成立						文献複写		
第15回	戦後日本の社会福祉③		社会福祉の本格的形成						文献複写		
授業方法(レ ディミッド、75分 ブ・トレーニング等)	小テスト・文献講読										
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。										
課題等	毎回指示を出す										
事前事 後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之(1931)『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著(1973)『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版 などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用 すること。										
教材 教科書 参考書	池田敬正(1994)『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著(2006)『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6										
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。 天候・交通機関の問題によって、オンデマンド授業とする。										

科目名	社会保障論 A		科目コード	W31011		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	科目ナンバリング	W-PPSW1-08		担当者名	丸山 龍太		授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>										
到達 目標	<p>社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解することができる。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的な理解ができる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	現代社会における社会保障制度の現状(1)		人口動態の変化、少子高齢化、人口減少社会、少子高齢化と社会保障制度の関係性について学ぶ。								
第2回	現代社会における社会保障制度の現状(2)		経済環境の変化、低成長社会と社会保障の持続可能性について学ぶ。								
第3回	現代社会における社会保障制度の現状(3)		労働環境の変化、正規雇用と非正規雇用、男女雇用機会均等法、障害者雇用促進法、ワークライフバランスについて学ぶ。						社会保障の現状に関する小テスト		
第4回	社会保障の概念や対象及びその理念(1)		障害者雇用促進法と範囲について学ぶ。								
第5回	社会保障の概念や対象及びその理念(2)		社会保障の役割と意義、セーフティネットについて学ぶ。								
第6回	社会保障の概念や対象及びその理念(3)		社会保障の理念について学ぶ。								
第7回	社会保障の概念や対象及びその理念(4)		社会保障の対象について学ぶ。								
第8回	社会保障の概念や対象及びその理念(5)		社会保障制度の展開、これまでの社会保障制度の歴史的変遷について学ぶ。						社会保障の役割、対象に関する小テスト		
第9回	社会保障と財政(1)		社会保障の財源、一般会計、地方経費、社会保険料、利用者負担、財政調整について学ぶ。								
第10回	社会保障と財政(2)		社会保障給付費、給付の内訳、給付動向について学ぶ。								
第11回	社会保障と財政(3)		国民負担率について学ぶ。								
第12回	社会保障と財政(4)		社会保障と経済について学ぶ。						社会保障の財政に関する小テスト		
第13回	社会保険と社会扶助の関係(1)		社会保険の概念と範囲について学ぶ。								
第14回	社会保険と社会扶助の関係(2)		社会扶助の概念と範囲について学ぶ。								
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。								
授業方法(ゼミナール、ケーススタディ等)	誘導ディスカッション	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り	クイズ、小テスト						
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。</p>										
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。										
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教材教科書参考書	教科書は、阿部裕二・熊沢由美編(2025)『社会保障 第2版』弘文堂、ISBN 978-4-335-61229-9 参考書として 椋野美智子・田中耕太郎編(2024)『はじめての社会保障 第21版』有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22234-2										
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。										

科目名	社会保障論B		科目コード	W31012	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	W-PPSW1-09		30時間						
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】 社会保障制度の体系と概要について理解する。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解する。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達 目標	社会保障制度の体系と概要について理解することができる。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解することができる。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	公的保険制度と民間保険制度の関係(1)		公的保険と民間保険の現状、公的保険と民間保険の主な種類を学ぶ。							
第2回	公的保険制度と民間保険制度の関係(2)		公的保険と民間保険の違い、それぞれの特徴について学ぶ。							
第3回	社会保障制度の体系(1)		医療保険制度等の概要、制度の目的、対象、給付内容について学ぶ。							
第4回	社会保障制度の体系(2)		前回講義内容を踏まえ、医療保険制度等の財源構成と公費負担医療について学ぶ。							
第5回	社会保障制度の体系(3)		介護保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。						レポート課題提示	
第6回	社会保障制度の体系(4)		年金制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第7回	社会保障制度の体系(5)		労災保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第8回	社会保障制度の体系(6)		雇用保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第9回	社会保障制度の体系(7)		生活保護制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第10回	社会保障制度の体系(8)		社会手当制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第11回	社会保障制度の体系(9)		社会福祉制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。						小テスト実施	
第12回	諸外国における社会保障制度(1)		先進諸国の社会保障制度の歴史と概要について学ぶ。							
第13回	諸外国における社会保障制度(2)		東アジア地域を含む諸外国における社会保障制度の概要を学ぶ。							
第14回	諸外国における社会保障制度(3)		社会保障制度の国際比較、とくに高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費の内訳について比べながら学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
授業方法(予 習・予修 ・予習等)	誘導ディスカッション	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り	クイズ、小テスト					
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は、阿部裕二・熊沢由美編(2025)『社会保障 第2版』弘文堂、ISBN 978-4-335-61229-9 参考書として 椋野美智子・田中耕太郎編(2024)『はじめての社会保障 第21版』有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22234-2									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	精神保健学 A		科目コード	W31015	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-10	時間	30時間	学年		学期	
区分	精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	大原 さやか			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>この授業は、ライフサイクルの各段階におけるこころの発達を学び、現代社会の精神的健康を阻害する要因を考える。それらを踏まえて精神保健活動の実際の事例から、精神保健にかかわる施策を学ぶことで人々の精神的健康について考えることを目的とします。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学 A では、精神保健福祉士を目指す学生に限らず、一般の人々を含めたこころの健康の保持・増進について精神保健の基本的な視点を学び、知識、援助方法を修得することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔1〕		①精神保健の動向、②精神保健活動の三つの対象						視聴覚（スライド）使用	
第2回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔2〕		①精神の健康に関する心的態度、②生活と悪習慣（アディクション）						視聴覚（スライド）使用	
第3回	家族に関する精神保健の課題と支援〔1〕		①家族関係における暴力と精神保健						視聴覚（スライド）使用	
第4回	家族に関する精神保健の課題と支援〔2〕		②出産・育児をめぐる精神保健						視聴覚（スライド）使用	
第5回	家族に関する精神保健の課題と支援〔3〕		③介護めぐる精神保健						視聴覚（スライド）使用	
第6回	家族に関する精神保健の課題と支援〔4〕		④社会的ひきこもりをめぐる精神保健						視聴覚（スライド）使用	
第7回	家族に関する精神保健の課題と支援〔5〕		⑤家族関係の課題						視聴覚（スライド）使用	
第8回	家族に関する精神保健の課題と支援〔6〕		⑥グリーフケア、⑦精神保健支援を担う機関						視聴覚（スライド）使用	
第9回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔1〕		①学校教育における精神保健的課題						視聴覚（スライド）使用	
第10回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔2〕		②教員の精神保健、③関与する専門職と関係法規						視聴覚（スライド）使用	
第11回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔3〕		④スクールソーシャルワーカーの役割						視聴覚（スライド）使用	
第12回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔4〕		⑤学校保健にかかわる社会資源						視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔1〕		①現代日本の労働環境、②産業精神保健とその対策						視聴覚（スライド）使用	
第14回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔2〕		③職場のメンタルヘルスのための相談						視聴覚（スライド）使用	
第15回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔3〕		④職場内の問題を解決するための機関及び関係法規						視聴覚（スライド）使用 オンデマンド講義	
授業方法(学びの場、学びの形式)	PBL（問題解決型学習）	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、レポート課題2本（各15%）、定期試験（40%）で評価する。レポート課題①は、講義を聞いた上で、深く調べたものを提出する。レポート課題②は、課題図書を読み、概略をまとめ考察したものを提出する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価									
課題等	各講義終了後にリアクションペーパーにコメントを記載する。講義後の理解度を確かめるとともに、さらに理解を深めたいことや疑問に思ったことを述べてもらい常に能動的な姿勢で講義に望む習慣を身につけたい。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 精神保健福祉士養成講座 2現代の精神保健の課題と支援 中央法規 ISBN978-4-8048-8253-5 ・スライド資料や新聞記事等の資料配布 									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健学B		科目コード	W31016	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-11	時間	30時間	学年		学期	
区分	精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	大原 さやか			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（DAPT、自殺予防、貧困問題、その他）と、精神保健に関する発生予防と対策（アルコール問題、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健など）そして地域精神保健に関する諸活動と専門職種、諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学Bでは、狭義の精神保健とし医療・福祉・司法などの課題とアプローチ方法について学び、また、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害などに対する現状と対策やそれらに対する精神保健福祉士の役割についてを学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①		こころのケアチーム 支援者のケア DPAT 犯罪被害者の支援						視聴覚（スライド）使用	
第2回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②		自殺予防 ゲートキーパー その他						視聴覚（スライド）使用	
第3回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ③		貧困問題と精神保健 社会的孤立						視聴覚（スライド）使用	
第4回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ④		反復違法行為 司法領域との連携						視聴覚（スライド）使用	
第5回	精神保健に関する発生予防と対策①		アルコール問題に対する対策 薬物依存対策 事例を通して学ぶ						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第6回	精神保健に関する発生予防と対策②		うつ病と自殺防止対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第7回	精神保健に関する発生予防と対策③		認知症高齢者に対する対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第8回	精神保健に関する発生予防と対策④		社会的ひきこもりに対する対策 事例を通して学ぶ						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第9回	精神保健に関する発生予防と対策⑤		災害時の精神保健に対する対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第10回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①		関係法規 人材育成						視聴覚（スライド）使用	
第11回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②		古典的偏見 制御可能型偏見						視聴覚（スライド）使用	
第12回	精神保健に関する専門職種①		精神保健福祉センター 保健所 市町村						視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神保健に関する専門職種②		当事者会 家族会 市民団体						視聴覚（スライド）使用	
第14回	諸外国の精神保健活動の現状と対策①		世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、他						視聴覚（スライド）使用	
第15回	諸外国の精神保健活動の現状と対策②		諸外国の精神保健医療の実情、他						視聴覚（スライド）使用	
授業方法（ゼミ、グループワーク等）	ペアワーク	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、レポート課題2本（各15%）、定期試験（40%）で評価する。レポート課題①は、講義を聞いた上で、深く調べたものを提出する。レポート課題②は、課題図書を読み、概略をまとめ考察したものを提出する。定期試験は、講義全体の内容についての程度理解したか評価									
課題等	各講義終了後にリアクションペーパーにコメントを記載する。講義後の理解度を確かめるとともに、さらに理解を深めたことや疑問に思ったことを述べてもらい常に能動的な姿勢で講義に望む習慣を身につけたい。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> 最新 精神保健福祉士養成講座 2現代の精神保健の課題と支援 中央法規 ISBN978-4-8048-8253-5 スライド資料や新聞記事等の資料配布 									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神医学 A		科目コード	W31013	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-12	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神医学の歴史、疾患の原因、治療を理解する。人権の面から、入院、移送、インフォームドコンセントを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達 目標	社会福祉士、精神保健福祉士として必要な精神障害を理解し、人権の在り方を学び、身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神医学概論（1）			欧米の精神医療の歴史					講義	
第2回	精神医学概論（2）			日本の精神医療の歴史					講義	
第3回	神経の生理解剖（1）			神経の解剖					講義	
第4回	神経の生理解剖（2）			神経の生理					講義	
第5回	精神障害の理解（1）			精神障害の概念					講義	
第6回	精神障害の理解（2）			精神疾患の成因と分類					講義	
第7回	症状と診断（1）			精神症状と状態像					講義	
第8回	症状と診断（2）			診断の手順と方法					講義	
第9回	症状と診断（3）			心理検査等					講義	
第10回	症状と診断（4）			国際疾病分類 ICD、診断・統計マニュアルDSM					講義	
第11回	治療と人権（1）			治療と入院形態					講義	
第12回	治療と人権（2）			インフォームドコンセント					講義	
第13回	治療と人権（3）			隔離、拘束					講義	
第14回	治療と人権（4）			救急医療システム					講義	
第15回	まとめ、試験			質疑応答						
授業方法(フ レンド、フ レンド、フ レンド等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	試験（60点以上）で評価する。									
課題等	課題をその都度提示し、質疑応答する。									
事前事 後学修	指定のテキストを読んでくること。講義中、指示する事項を自宅で調べる。									
教材 教科書 参考書	「最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療」 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8252-8									
留意点										

科目名	精神医学B		科目コード	W31014		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-13							
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	和田 一丸				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】 主な精神疾患（統合失調症、うつ病、不安症、摂食障害、認知症など）に関して、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>										
到達 目標	統合失調症やうつ病などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	統合失調症 1		統合失調症の概念と原因								
第2回	統合失調症 2		統合失調症の症状								
第3回	統合失調症 3		統合失調症の診断と治療								
第4回	うつ病と双極性障害 1		うつ病および双極性障害の概念、原因、症状								
第5回	うつ病と双極性障害 2		うつ病および双極性障害の診断と治療								
第6回	心因と関係した精神疾患 1		不安症などを含む神経症性障害の概念・症状								
第7回	心因と関係した精神疾患 2		不安症などを含む神経症性障害の診断・治療								
第8回	摂食障害・睡眠障害		神経性やせ症・神経性過食症・ナルコレプシーなどについて								
第9回	性行動の障害・パーソナリティ障害		性同一性障害・境界性パーソナリティ障害などについて								
第10回	発達障害・児童期の精神疾患		知的障害・自閉スペクトラム症などについて								
第11回	精神作用物質による精神・行動の障害		アルコール依存症などについて								
第12回	認知症		アルツハイマー型認知症、血管性認知症などについて								
第13回	器質性精神障害		様々な器質性・症状性精神障害について								
第14回	てんかん		てんかんの原因・症状・診断・治療								
第15回	精神医療と社会		精神医療と社会との関わりについて								
授業方法(47 の177イ ア・イ・ロ等)	理解度チェック										
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度30%、定期試験70% 精神疾患についての基本的理解を試す試験問題を出し、精神医学に関する一般的知識のみならず答案の論理性を評価するとともに、授業への参加度等を考慮して総合的に成績を評価する。										
課題等	臨床精神医学に関するレポートなど課題を課す場合がある。										
事前事後 学修	臨床精神医学についての関係資料プリントを適宜配布するので、内容を把握すること。										
教材 教科書 参考書	「最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療」 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8252-8										
留意点											

科目名	児童福祉論		科目コード	W31030	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-14	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	宮田 将希			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・家庭福祉に関する基本的な内容について学習する。 ・子ども家庭福祉が今までのどのように発展し、子どもとその家族を取り巻く環境がどのように広がっているかについて学習する。 ・子ども家庭福祉領域に関する事例をもとに議論や検討を行う。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達目標	子ども家庭福祉に関する基本的な内容について理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		授業の進め方についての説明。							
第2回	子ども家庭福祉とは		子ども家庭福祉の領域について導入を行う。							
第3回	子どもの権利擁護		子どもの権利擁護について学ぶ。							
第4回	子ども家庭福祉の歴史		子ども家庭福祉に関する歴史的な変遷について学ぶ。							
第5回	子ども家庭福祉の法体系		児童福祉法等の法体系について学ぶ。							
第6回	子ども家庭福祉施策		子ども家庭福祉に関する行政・自治体の取り組みについて学ぶ。							
第7回	事例検討		子ども家庭福祉に関する事例をもとに内容を議論する。							
第8回	子どもの虐待		子どもが受ける虐待の定義やその予防について学ぶ。							
第9回	社会的養護・養育		社会的養護・養育の仕組みについて学ぶ。							
第10回	家族支援と家庭支援		子どもとその周りの家族への支援について学ぶ。							
第11回	ケアラーバーとアフターケア		施設退所者（ケアラーバー）と施設退所後の支援（アフターケア）について学ぶ。							
第12回	子どもの貧困		子どもの貧困についてその対策や取り組みについて学ぶ。							
第13回	若者支援と女性支援		子ども家庭福祉の近接領域である若者支援や女性支援について							
第14回	事例検討		子ども家庭福祉に関する事例をもとに内容を議論する。							
第15回	まとめ		これまでのまとめ。							
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	PBL(問題解決型学習)	クイズ、小テスト							
評価方法及び評価基準	授業への参加度30%（出席・リアクションペーパー・発言等） 期末試験70%									
課題等	その都度指示します。									
事前事後学修	授業の進捗に合わせて、指定教科書の内容を予習・復習すること。									
教材教科書参考書	日本ソーシャルワーク教育連盟編集（2021）『最新社会福祉養成講座3「児童・家庭福祉」』中央法規 978-4-8058-8246-7									
留意点										

科目名	障害者福祉論		科目コード	W31031		単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-15		時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	齊藤 隆之				授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修									
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害者福祉は近年大きな制度的変革の波にさらされている。一方で、その歴史の変遷に源流を置く基本理念や概念は揺らぐことない共通基盤として、障害者福祉を理解しようとする者に代えたい示唆を与えてくれる。本講義では、障害者福祉の歴史的展開、基本理念、諸概念への理解を深めた上で、法制度の実態とその課題を学ぶことで、障害者ソーシャルワークの射程である「障害者の生活」について現場の実例も交えながら実践的視座を身につけるものである。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>STEP1：障害者福祉の歴史的展開からその理念、諸概念の本質を理解する。</p> <p>STEP2：障害者福祉を取り巻く法制度、サービス、各種組織、専門職等について理解する。</p> <p>STEP3：障害者ソーシャルワークの視点を醸成し、その生活を支援することについて考察する。</p> <p>STEP4：「障害者の生活を支援すること」について、その本来的意味をソーシャルワークの視点で理解し、実践的視座を養う。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 障害とは？			本授業の進め方、時間外学習等について「障害とは何か」という根本的問いを考える						Teams使用・講義・ディスカッション	
第2回	障害者福祉の基本理念			ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の基本となる各種理念について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第3回	障害者福祉のあゆみ			障害者福祉のこれまでの歴史的展開やあゆみを理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第4回	障害者の生活実態とニーズ①			各種調査データ等からみる障害者の生活実態と生活ニーズについて理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第5回	障害者の生活実態とニーズ② 障害者の社会参加①			各種調査データ等からみる障害者の生活実態と生活ニーズについて理解しようとする 障害者の社会参加について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第6回	障害者の社会参加②			障害者の社会参加について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第7回	障害者福祉に関する制度や法律			障害者に関わる各法の外観を理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第8回	障害者総合支援法①			障害者総合支援法の概要について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第9回	障害者総合支援法②			障害者総合支援法の各サービスについて理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第10回	障害者の雇用			障害者を取り巻く雇用の状況、就労支援について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第11回	映像の中の障害者			VTR「最強のふたり」（予定）視聴						VTR視聴 VTR視聴シートの作成 ※課題①	
第12回	障害者の権利擁護			障害者の権利に関する法制度と障害者を取り巻く状況について理解しようとする						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第13回	障害者と家族などの支援における関係機関と専門職の役割 障害者と家族などに対する支援の実際①			障害者を取り巻く社会資源や専門職について概要を理解しようとする 障害者とその家族等への支援について理解しようとする (きょうだい等の課題を含む)						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第14回	障害者と家族などに対する支援の実際②			障害者とその家族等への支援について理解しようとする (きょうだい等)						Teams使用・WEB閲覧・講義・ディスカッション	
第15回	総括：これからの障害者福祉			障害者福祉の学びを振り返り、あらためて「障害とは何か」という問いへの自分なりの回答を考察する						Teams使用・講義・ディスカッション ミニレポート※課題②	
授業方法 (レクチャー、グループワーク等)	リフレクションシート	授業中のノート取り	誘導ディスカッション	理解度チェック							
評価 方法 及び 評価 基準	<p><基礎点>定期試験90点(a)</p> <p><加算点>発言点+グッドコメントポイント(上限15点)(b) レポート課題2回(各5点=上限10点)(c)</p> <p><評 価>(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。</p> <p>※詳細については初回講義時に説明をする。</p>										
課題等	レポート課題については、Microsoft Teams上でフィードバックを行う。										
事前事後 学修	本授業では反転学習を基本とするため、毎回の講義時に次回までの予習事項について指示を行う。事前準備学習を次回授業までに30分×5日程度行うこと。復習は当該回のリフレクションシートを活用して授業の振り返り(30分以上)を行うこと。										
教材 教科書 参考書	書名：最新・はじめて学ぶ社会福祉15「障害者福祉」 著者名：柿木志津江・清原舞 編著 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円(税別) ISBN：978-4-623-09504-9										
留意点	本授業ではPC、タブレット、スマートフォン等を使用するため、バッテリー等の消費に各自対応できるよう準備を行うこと。										

科目名	老人福祉論		科目コード	W31032	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-16	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 浩行・中村 直樹			授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。また、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解する。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。また、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解することができる。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解することができる。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解することができる。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	高齢者の定義と高齢者の特性・高齢者の生活実態			高齢者の定義と高齢者の特性(社会的理解、身体的理解、精神的理解) 高齢期の住居、所得、世帯、雇用と就労、介護需要、介護予防					担当：工藤	
第2回	高齢者を取り巻く社会環境・高齢者福祉の理念			高齢期の独居、老老介護、ダブルケア、8050問題、高齢者虐待、介護者の離職の実態、人権尊重、尊厳の保持、老人福祉法における理念、介護保険法における理念					担当：工藤	
第3回	高齢者観の変遷・高齢者福祉制度の発展過程			敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング 高齢者福祉制度の歴史とその発展過程					担当：中村	
第4回	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律と高齢者虐待防止法			老人福祉法の概要と老人福祉法に基づく措置制度 高齢者の医療の確保に関する法律の概要、高齢者虐待防止法による虐待の未然防止、通報義務、早期発見の仕組み					担当：中村	
第5回	バリアフリー新法と高齢者住まい法・高齢者雇用安定法と育児・介護休業法			バリアフリー新法と高齢者住まい法の概要 高齢者雇用安定法と育児・介護休業法の概要					担当：中村	
第6回	高齢者と家族等の支援における関係機関の役割・関連する専門職等の役割			国、都道府県、市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、地域包括支援センター、ハローワーク、シルバー人材センター 介護福祉士、訪問介護員、介護支援専門員、福祉用具専門相談員、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等の専門職の役割、認知症サポーターや住民、ボランティアの活動					担当：工藤	
第7回	介護保険法と介護保険制度の概要			介護保険法と介護保険制度の概要 保険者と被保険者、保険料、介護報酬の概要					担当：中村	
第8回	介護保険の保険財政・介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス			介護保険の保険財政 介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス					担当：中村	
第9回	介護保険の居宅サービスの種類・介護保険の施設サービスの種類			介護保険の居宅サービスの種類、サービスの特徴 介護保険の施設サービスの種類、サービスの特徴					担当：中村	
第10回	介護保険の地域密着型サービスの種類・近年の介護保険法改正と制度の変更点			介護保険の地域密着型サービスの種類、サービスの特徴 近年の介護保険法改正と制度の変更点、共生型サービス、地域支援事業の拡充					担当：中村	
第11回	地域支援事業・介護保険サービスの利用負担と利用者負担の軽減策			地域支援事業の内容、介護保険サービスの利用負担の仕組み、高額介護サービス費、高額介護合算療養費等の利用者負担の軽減策					担当：中村	
第12回	介護保険事業計画・地域包括支援センターの組織体系と役割			市町村による介護保険事業計画、地域包括支援センターの組織体系と役割					担当：中村	
第13回	総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画・高齢者領域における社会福祉士の役割			総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画の視点、高齢者領域における社会福祉士の役割					担当：工藤	
第14回	高齢者と家族に対する支援・多職連携による高齢者と家族の支援の実例			高齢者とその家族に対する支援、介護をしながら就労する家族の支援、介護予防の支援、地域包括包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援の実例					担当：工藤	
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめ					担当：中村	
授業方法(レクチャー、グループワーク等)	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>・①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。</p> <p>・期末試験は、到達目標をもとに、全体像を理解できているかについて評価する。</p> <p>・授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。</p> <p>また、適宜、グループ発表等の評価も加算する。</p>									
課題等	<p>・サービス内容に関するグループ プレゼンテーション (調べ学習・発表) ・リアクションペーパー</p>									
事前事後学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教科書参考書	<p>【教科書】社会福祉士養成講座編『高齢者福祉 第2版』中央法規、2024、978-4-8243-0154-3</p> <p>【参考書】『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房、2024、978-4-623-09697-8</p>									
留意点	<p>・この科目は、社会福祉士国家試験資格取得「指定科目」である。</p> <p>・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。</p> <p>・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。</p>									

科目名	公的扶助論		科目コード	W31035	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
	社会福祉系列科目	選択必修	科目ナンバリング	W-PPSW2-17	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目		担当者名	丸山 龍太			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。公的扶助論Aでは、次の4つの項目の理解を促す。 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。④貧困による生活課題を踏まえ、謝意が福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>到達目標として講義を通じて次の4つの項目の理解を促す。</p> <p>①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解することができる。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解することができる。 ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	貧困の概念			①貧困の概念(絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立)、②公的扶助の意義と範囲(公的扶助の意義、生存権、セーフティネット、ナショナルミニマム)、③公的扶助の範囲(狭義、広義)について学ぶ。					講義・Think pair share	
第2回	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境			貧困状態にある人の生活実態(健康、居住、就労、教育、社会資本関係)及び社会環境(経済構造の変化、家族や地域の変化、格差の拡大、社会的孤立)について学ぶ。					講義・Think pair share	
第3回	貧困の歴史(1)			①貧困状態にある人に対する福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、貧困、格差、差別の解消)、②貧困観の変遷(スティグマ、貧困の測定、貧困の発見)について学ぶ。					講義・Think pair share	
第4回	貧困の歴史(2)			貧困に対する制度の発展過程、救貧制度(日本、諸外国)、生活保護法、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、生活困窮者自立支援法の概要を学ぶ。					講義・Think pair share	
第5回	貧困の歴史(3)			"					講義・Think pair share	
第6回	貧困に対する法制度(1) 生活保護法①			①生活保護法の原理と原則と概要、②生活保護制度の動向、③最低生活費と生活保護基準、④福祉事務所の機能と役割について学ぶ。					講義・Think pair share	
第7回	貧困に対する法制度(2) 生活保護法②			③最低生活費と生活保護基準、④福祉事務所の機能と役割について学ぶ。①生活保護に関する相談の流れ、②自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム、③生活保護施設の役割について学ぶ。					講義・Think pair share	
第8回	貧困に対する法制度(3) 生活保護法③ 自立支援プログラム			①生活保護に関する相談の流れ、②自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム、③生活保護施設の役割について学ぶ。					講義・Think pair share	
第9回	貧困に対する法制度(4) 生活困窮者自立支援法			①生活困窮者自立支援法の理念と概要、②生活困窮者自立支援制度の動向、③自立相談支援事業と任意事業、④生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制、⑤相談支援の流れといった制度の概要を学ぶ。					講義・Think pair share	
第10回	貧困に対する法制度(5) 低所得者・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法			①生活福祉資金貸付制度、②無料低額診療事業、③無料低額宿泊所、④求職者支援制度、⑤法律扶助、⑥低所得者への住宅政策と住居支援⑦ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要⑧ホームレスの考え方と動向、⑨ホームレス支援施策について学ぶ。					講義・Think pair share	
第11回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(1)			①貧困に対する支援における公私の役割関係(行政の責務、公私の役割)、②国、都道府県、市町村の役割(国の役割、都道府県の役割、市町村の役割)、③福祉事務所の役割(福祉事務所の組織と業務)について学ぶ。					講義・Think pair share	
第12回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(2)			①自立相談支援機関の組織、役割、業務について、②その他の貧困に対する支援における関係機関の役割(社会福祉協議会、ハローワーク、地域若者サポートステーション、民間支援団体等)、関連する専門職等の役割、について学ぶ。					講義・Think pair share	
第13回	多職種連携を含む、貧困に対する支援実際—社会福祉士の役割—①			①ソーシャルワークを展開する上で害悪であるスティグマの基礎的理解を図る。②スティグマの理解及び克服の必要性を「ソーシャルワーカーの倫理綱領」を通じて理解する。③スティグマ撲滅に向けた課題を確認する。					講義・Think pair share	
第14回	多職種連携を含む、貧困に対する支援実際—社会福祉士の役割—②			①生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援の実際、②生活困窮者自立支援法における自立支援、就労支援、居住支援の実際、③生活福祉資金貸付を通じた自立支援の実際、④多機関及び多職種、住民、企業等との連携による地域づくりや参加の場づくりの実際について事例を通して学ぶ。					講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。					講義	
授業方法(ゼミ、PBL、グループワーク等)	PBL(問題解決型学習)	授業中のノート取り	理解度チェック							
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。</p> <p>レポート課題は、能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。</p> <p>試験は、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。</p> <p>参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」をWI-FIを用いて実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	第8回目を目途にレポート課題をTEAMSで提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。									
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。									
教材教科書参考書	伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年 (ISBN 978-4-335-61221-3)									
留意点	「慈恵的救済から権利的保障へ」と発展した公的扶助は近年大きく揺らいでいる。貧困に対抗する為に何をどうするか。講義を通じ共に考えることとしたい。									

科目名	地域福祉論 A		科目コード	W33009	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-18	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解する。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解することができる。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	地域福祉の概念と理論		地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア、市民活動論、共生社会について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第2回	地域福祉の発展過程（歴史）		セツルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同募金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア。地域共生社会の概要について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第3回	地域福祉の動向		コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティについて学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第4回	地域福祉の推進主体		地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織、民生児童委員、保護司、社会福祉協議会等について学ぶ。						地域福祉の多様な推進主体に関する理解度アップ	
第5回	地域福祉の主体と形成		当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民活動、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第6回	福祉行政システム(1)		国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、法定受託事務と自治事務、福祉行政の広域調整、事業者の指導監督、サービスの運営主体、条例、社会福祉審議会について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第7回	福祉行政システム(2)		福祉行政の組織及び専門職の役割、とくに福祉事務所と児童相談所、それらの機関で働く専門職、福祉における財源について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第8回	福祉計画の意義・目的と展開		福祉行政と福祉計画の関係、福祉計画の関係、福祉計画の歴史、福祉計画の種類について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第9回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容		地域福祉と計画行政の関係、市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能、地域福祉活動計画との関係について学ぶ。						Wi-Fiに接続し地元の地域福祉計画等を調べる	
第10回	福祉計画の策定過程と方法		計画策定に向けた課題把握、分析、協議と合意形成について学ぶ。						福祉計画の策定過程と方法に関する小テスト	
第11回	福祉計画の実施と評価		サービス評価、プログラム評価について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第12回	地域社会の変化と多様化		地域社会の理念と理論、地域社会の変化(過疎化・都市化・地域間格差外国人住民の増加等)について学ぶ。						過疎化・空き家活用に関する小レポート	
第13回	多様化複雑化した地域生活課題の現状とニーズ		ひきこもり、ニート、8050問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害と被災者支援について学ぶ。						オンデマンド授業	
第14回	地域福祉と社会的孤立の問題について		社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト等、社会的な孤立の問題について学ぶ。						出身地・居住地の市町村の社会資源を把握するためのレポート用紙を記入	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						前回のレポート結果を踏まえペアワーク等討論を含む	
授業方法(オンデマンド、ライブ授業、ブレンド型等)	資料記入	授業中のノート取り	理解度チェック	クイズ、小テスト	ペアワーク					
各講義回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。オンデマンド授業回も備考欄記載のとおり。										
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストや確認ペーパーも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストや確認ペーパー、レポート等を適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。その他、期末試験対策の総まとめの復習を行うこと。									
教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-88865-0である。参考書として、いとう総研資格取得支援センター編(2024)『社会福祉士国試ナビ2025』中央法規 ISBN-978-4-8243-0043-0(但し毎年7月に最新版が出るので、参考書購入は任意である)									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。 第13回目はオンデマンド授業とする。受講者は指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題を提出してください。詳細は授業内に説明する。 									

科目名	地域福祉論B		科目コード	W33010	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	科目ナンバリング	科目ナンバリング	W-PPSW2-19	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉論Aでの学修成果を踏まえ、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。また、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>地域福祉論Aでの学修成果を踏まえ、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。また、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	包括的支援体制について		包括的支援体制の考え方、包括的支援体制の展開について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第2回	地域包括ケアシステムについて		地域包括ケアの考え方と展開方法、精神障害にも対応した地域包括ケアの展開、子育て世代包括支援センターについて学ぶ。						先進事例紹介に対する感想(リアクションペーパー)記入	
第3回	生活困窮者自立支援の考え方(1)		生活困窮者自立支援制度と理念、自立相談機関による支援過程と方法及び実際について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第4回	生活困窮者自立支援の考え方(2)		伴奏型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、個人および世帯の支援、居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援について学ぶ。						生活困窮者支援に関する理解度チェック	
第5回	地域共生社会の実現に向けた各種施策について		多機関協働による包括的支援体制、住民に身近な圏域における相談支援体制について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第6回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(1)		総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第7回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(2)		地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第8回	地域共生社会の実現に向けた多職種連携		保健・医療・福祉に関わる他職種連携、生活支援全般に関わるネットワーク、多職種連携等における個人情報保護について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第9回	地域共生社会の実現に向けた福祉以外の分野との機関協働の実際		社会的企業、農福連携、観光や商工労働等との連携、地方創生について学ぶ。						Wi-Fiに接続し農福連携、商工労働分野等と連携した取組実践事例を調べる	
第10回	非常時や災害時における法制度		災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第11回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援		災害時要援護者支援、BCP、福祉避難所運営、災害ボランティアについて学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第12回	地域福祉ガバナンス(1)		地域福祉と包括支援体制を推進するためのガバナンスの考え方、多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第13回	地域福祉ガバナンス(2)		社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営について学ぶ。						重要箇所を各自で資料記入	
第14回	地域共生社会の構築		地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制について学ぶ。						地元の地域包括ケアに向けた取り組み状況と課題を調べるレポート	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						ペアワークで前回のレポート報告(PBL)を含む	
授業方法(ゼミナール、PBL、グループワーク等)	資料記入	授業中のノート取り	PBL(問題解決型学習)	理解度チェック	クイズ、小テスト	ペアワーク				
	各講義回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。									
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストや確認ペーパーも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストや確認ペーパー、レポート等を適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。その他、期末試験対策の総まとめの復習を行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-88865-0である。参考書として、いとう総研資格取得支援センター編(2024)『社会福祉士国試ナビ2025』中央法規 ISBN-978-4-8243-0043-0(但し毎年7月に最新版が出るので、参考書購入は任意である)									
留意点	・定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	保健医療論		科目コード	W33013	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-20	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	葛西 孝幸			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>保健医療の課題を持つ人を支援するのは医療ソーシャルワーカーと思われがちですが、医療の提供システムとして地域完結型へと変化する中で、保健医療領域以外で実践を行うあらゆる領域の社会福祉士にも大きく関連します。本科目では、保健医療の動向、社会保険制度や診療報酬制度など保健医療の政策・制度・サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割と連携・支援のあり方を理解することを目的とします。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の現状や福祉的課題について説明できる。</p> <p>2) 保健医療に係る政策、制度、サービスについて説明できる。</p> <p>3) 保健医療領域における社会福祉士の役割と、院内および関係機関との連携や協働について説明できる。</p> <p>4) 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実際について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション／保健医療領域におけるソーシャルワークの対象者の理解①			授業の概要を説明する。／健康の定義と病者、ならびに病をもつことによって生じる諸問題を学ぶ。					テキスト第1章	
第2回	保健医療領域におけるソーシャルワークの対象者の理解②			疾病・障害が家族に与える生活上の影響と家族支援の必要性、ならびに保健医療領域における患者の権利を学ぶ。					テキスト第1章	
第3回	医療倫理と倫理的課題			医療倫理の基礎、ならびに生殖医療・移植医療・終末期医療における倫理的課題を学ぶ。					テキスト第2章	
第4回	意思決定支援をめぐる諸課題			意思決定支援およびアドバンスケアプランニングにおける諸問題を学ぶ。					テキスト第2章	
第5回	保健医療の動向①			疾病構造とその経年的な動向について学ぶ。					テキスト第3章	
第6回	保健医療の動向②			地域完結型医療／在宅医療推進の背景と課題、ならびに地域包括ケアシステムにおける医療機関の役割について学ぶ。					テキスト第3章	
第7回	保健医療の動向③			保健医療における福祉的課題の概要について学ぶ。					テキスト第3章	
第8回	保健医療に係る政策・制度			保健医療の政策・制度について、全体像を外観し、その課題と方向性を学ぶ。					テキスト第4章	
第9回	保健医療サービスの理解			保健医療サービスの提供体制を体系的に捉え、各サービスの整備に関する基礎を学ぶ。					テキスト第4章	
第10回	医療費の保障			医療費保障制度を体系的に捉え、医療費に関する社会資源と介護等に関する社会資源を学ぶ。					テキスト第4章	
第11回	保健医療領域における専門職の役割と連携①			連携する医療の専門職とチーム医療、ならびにチームのタイプによる特徴と機能、連携におけるコンフリクトを学ぶ。					テキスト第5章	
第12回	保健医療領域における専門職の役割と連携②			医療を取り巻く社会環境と、地域の関係機関との連携の必要性を学ぶ。					テキスト第5章	
第13回	保健医療領域における専門職の役割と連携③			医療ソーシャルワーカーが所属する所属する部門、ならびにケース発見と情報共有の仕組みを学ぶ。					テキスト第5章	
第14回	医療ソーシャルワーカーの歴史			イギリス、アメリカ、日本における医療ソーシャルワーカーの歴史、ならびに業務指針から支援の実際を学ぶ。					テキスト第6章	
第15回	保健医療領域における支援の実際			医療ソーシャルワーカーが行う判断、活用している知識や技術を事例から学ぶ。					テキスト第6章	
授業方法(学びの場、学びの時間)	PBL (問題解決型学習)		グループワーク							
評価方法及び評価基準	<p>定期試験90%、PBLならびにグループワーク参加度10%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験日時は、授業開始後に掲示する。 ・PBLならびにグループワーク参加度については、授業で示された知識・技能や課題・問題に対する考えをディスカッションできているか評価する。 									
課題等	各授業での新たな学び・意見・感想・質問事項を授業終了時にGoogleformで提出させるため、スマートフォン等QRコードを読み込める機器を持参すること。質問があった際には、次回授業で回答する。									
事前事後学修	講義を理解するためには予習復習が欠かせません。一読で良いので、教科書の該当部分に目を通してください。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】日本ソーシャルワーク教育学校連盟『保健医療と福祉』第2版 中央法規出版 (2025) 978-4-8243-0156-7</p> <p>【参考書】NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会編集『医療福祉総合ガイドブック』明石書店 (2025) 2025年4月発売</p>									
留意点	この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目です。									

科目名	更生保護論		科目コード	W33014	単位数	2単位	対象	4年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-21	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	平野 潔			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>更生保護制度を中心に刑事司法制度の枠組みを理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方について考えます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 刑事司法制度が身近な問題であり、国民一人一人が考えたり取り組んだりしなければならない問題であることを実感できる。 刑事司法制度の仕組みや手続きを、そのような仕組みや手続きが準備されている理由を含めて理解する。 犯罪や非行からの立ち直りに関して、現在どのような問題が起きており、それに対してどのような対策が採られているかを把握する。 更生保護が抱える問題点を理解した上で、更生保護のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	刑事司法制度の全体像		刑事司法と福祉がどのような接点を持つのかを示した上で、架空事例を用いながら刑事司法制度について概説する。							
第2回	犯罪と刑罰		刑法の基本原則や犯罪の成立要件を概説する。また、刑罰の正当化根拠も含めて、刑罰制度について解説する。							
第3回	刑事事件の手続きと施設内処遇		刑事訴訟手続きの基本原則を示した上で、刑事事件の手続を概説する。また、刑事施設内での処遇について解説する。							
第4回	少年法と少年事件の手続き		少年法の理念を示したうえで、少年事件の手続を概説する。また、少年に対する処遇についても解説する。							
第5回	更生保護の基本原則		更生保護の目的、内容などを概説した上で、更生保護の基本原則について説明する。							
第6回	仮釈放①		仮釈放制度の意義や手続きを説明した上で、とくに成人に対する仮釈放について、その趣旨などを解説する。							
第7回	仮釈放②・生活環境の調整		仮釈放のうち、少年に対する仮釈放について解説する。また、生活環境の調整の意義や内容について説明する。							
第8回	保護観察制度の概要①		保護観察の基本的な内容を解説した上で、主として少年の保護観察について、その種類や手続き等を説明する。							
第9回	保護観察制度の概要②・更生緊急保護		成人を対象とする保護観察の種類・手続き等について解説をする。また、更生緊急保護の位置づけ・手続き等の説明をする。							
第10回	更生保護の担い手①		保護観察の中核を担う保護観察官と保護司について、その職務内容を説明する。また、更生保護施設の役割も解説する。							
第11回	更生保護の担い手②		民間の協力者である更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活動内容を中心に、それぞれが担う役割を説明する。							
第12回	医療観察制度①		医療観察法が成立する前にどのような問題が生じていたのかを分析した上で、医療観察法成立の背景を説明する。							
第13回	医療観察制度②		医療観察法の手続きやしくみを紹介した上で、それがどのような意図のもとに作られたのかを解説する。							
第14回	犯罪被害者の支援		犯罪被害者支援の歴史を概観した上で、とくに更生保護における被害者支援の制度について解説する。							
第15回	更生保護の近時の動向と今後の課題		これまでの講義内容から現在の更生保護の問題点を抽出し、その解決策として近時提示されている新たな取り組み・課題を紹介する。							
授業方法(フ ォーム、7行 ブ、ラコグ等)	理解度チェック	授業中のノート取り								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>平常評価 30点 (授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約(「授業のまとめ」)等を総合して平常評価とします。ただ授業に出ているだけでは、点数はつきませんので注意して下さい。)</p> <p>定期試験 70点 (授業内容から「論述問題」を中心に出題します。試験の際には、授業中に配布した資料と自筆ノートのみ持ち込みを認めます。採点のポイントは、授業で扱った用語、制度の趣旨、手続きなどを理解した上で、それを相手に伝えるような形で表現できているか、自分なりの考えを表現できているかという点になります。)</p>									
課題等	授業終了時に感想や質問を記入してもらいます。それについては、次回の授業時にコメントをします。また、「授業のまとめ」に関しては、次回の授業時に回収してチェックをし、理解が不十分と思われる点については、次々回の授業時に解説をします。									
事前事後 学修	毎回授業終了時に次回の学習範囲とポイントを、事前に目を通して欲しい資料を示しますので、事前に資料を読むなどして調べておいてください。事前学修としては1時間程度が必要です。事後学修として、授業内容を復習した上で「授業のまとめ」をやってきてもらいます。事後学修としては2時間程度が必要です。									
教材 教科書 参考書	とくに指定しません。授業時に資料を配布し、それによって授業を進めます。参考書等は開講時に紹介します。									
留意点	毎回の授業終了時にはコメント記入を求められますし、次回までやってくる課題(「授業のまとめ」)が出されます。コメントや課題の内容によっては点数がつかないこともあります。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には平常評価にはカウントされません。本講義に関しては、授業中ただ座って話を聞いているだけでは意味がありません。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けてください。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったりしますので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んでください。									

科目名	社会福祉経営論		科目コード	W33015		単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-22		時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	保田 宗良				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉法人の経営について多角的に学習します。人材の育成、人材のマネジメントについて深く探究します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>										
到達 目標	<p>福祉サービスの経営を理解するための基礎知識の修得に力を置きます。社会福祉法人の施設長。職員が修得すべき専門知識を学びます。福祉職以外の他職種と連携する組織づくりにも言及します。ひとつづくり、地域コミュニティづくりを探究し、人材育成、人材マネジメントの意義、進め方を正確に理解することが到達目標です。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	福祉サービスの全体像			福祉サービスの概念を明確に示し、学習範囲を定めます。他のサービス業との比較により、その概念を明確に示唆します。							
第2回	福祉サービスを提供する組織			福祉サービスを提供する組織を、社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、その他に分けて、それぞれの特徴を学習します。							
第3回	福祉サービスの沿革と概況			福祉サービスの歴史、社会福祉法人制度改革についての流れを、把握します。							
第4回	組織間連携と促進			現在の福祉サービスは、組織間連携、多職種連携の形式が多く見られます。チームでサービスを連携する方法を学習します。							
第5回	組織運営の基礎理論			組織論について学習し、福祉サービスの組織づくりを考察します。課題を班ごとに議論します。						グループワーク	
第6回	集団力学の基礎理論			集団の意思決定、コンフリクトについて事例に依拠して詳細に考察します。							
第7回	リーダーシップの基礎理論			福祉サービスにおける、リーダーシップを具体的に検討します							
第8回	経営体制			社会福祉法人で望ましい経営体制について、探究します。						中間レポート提出	
第9回	コンプライアンスとガバナンス			社会福祉法人に求められるコンプライアンスとガバナンスを究明します。							
第10回	福祉サービスの経営管理			マーケティングの基本メカニズムとリスクマネジメントについての事例を、班ごとに議論して学習を深めます。						グループワーク	
第11回	情報管理			福祉サービスの情報と管理の運用方法を把握します。							
第12回	会計管理と財務管理			社会福祉法人の財務管理、会計管理を学習し、財務諸表の見方を理解します。							
第13回	福祉人材マネジメント			人材の確保と採用、評価システムを考察します。							
第14回	福祉人材の育成			キャリアパスを考慮した福祉人材の育成方法を検討します。							
第15回	半期のまとめ			半期の学習を整理し、論点を班ごとに議論します。						グループワーク	
授業方法(フ ォーム、7対 1グループ等)	グループワーク	誘導ディスカッション	授業中のノート取り	理解度チェック							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>中間レポート(50点満点) + 学期末試験(50点満点)で評価します。教科書を精読し、講義で修得した専門知識を包括したもので自分の意見を明確に示した記述を求めます。中間レポートは、早めに採点をを行い、コメントを付して返却します。</p>										
課題等	<p>中間レポートの課題に対する理解度を確認し、必要があれば追加の課題を出題します。</p>										
事前事後 学修	<p>毎回、講義の終了時に教科書の復習範囲、予習範囲を指示します。必要な学習時間を具体的に示します。</p>										
教材 教科書 参考書	<p>教科書 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)「福祉サービスの組織と経営」中央法規 ISBN 978-4-8058-8244-3</p>										
留意点	<p>毎回出席を重ね、専門知識を蓄積して下さい。やむをえず欠席する場合は後日配布資料を渡しますが、自習で補足して頂きます。班ごとのグループワークを行い、同級生と議論を重ね論点を整理する練習を行います。</p>										

科目名	精神保健福祉の原理A		科目コード	W31033		単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-23		時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉の原論Aでは、「障害者福祉の理念と歴史的展開」、「精神障害と精神障害者の概念」を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。また「精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造」では、歴史的事実のみでなく、そこから人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について学ぶ。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的とともに、生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション			精神保健福祉の原理を学ぶ意義と目的の理解						視聴覚（スライド）使用	
第2回	障害者福祉の思想と原理			優生思想と社会防衛思想/基本的人権の保障/社会正義の実現/法の下の平等						視聴覚（スライド）使用	
第3回	障害者福祉の理念・リハビリテーション			ノーマライゼーション/エンパワメント/自立生活/機会均等/ソーシャル・インクルージョン						視聴覚（スライド）使用	
第4回	障害者の福祉の歴史的展開			基本的人権の保障（自由権と社会権）/自立支援・社会参加支援/消費者としての権利保障						視聴覚（スライド）使用	
第5回	障害のとりえ方			国際生活機能分類に基づく障害のとりえ方（ICF/ICIDH）制度における「精神障害者」の定義						視聴覚（スライド）使用	
第6回	精神障害の障害特性			蜂矢モデル/ICFモデル/上田敏モデル						視聴覚（スライド）使用	
第7回	障害者に対する処遇の歴史①			諸外国の動向（ビーンズ/魔女裁判/精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則）						視聴覚（スライド）使用	
第8回	障害者に対する処遇の歴史②			日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事						視聴覚（スライド）使用	
第9回	障害者に対する処遇の歴史③			日本社会におけるさまざまな局面で発生する障害者排除や障壁						視聴覚（スライド）使用	
第10回	障害者に対する処遇の歴史④			現代の日本における精神障害者の活動						ゲスト講演	
第11回	精神障害者の生活実態①			精神科医療の特異性との関連（強制入院・治療/精神科特例/病床数と在院日数/隔離と身体的拘束など）						視聴覚（スライド）使用	
第12回	精神障害者の生活実態②			精神障害者の家族（強制入院における保護者制度の歴史/家族とその生活実態/家族の多様性）						視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神障害者の生活実態③			社会生活（居住形態、家族の同居率/生活保障（生活保護・年金・手帳）/就労など）						視聴覚（スライド）使用	
第14回	メンタルヘルスの動向			学校や職場におけるメンタルヘルス						視聴覚（スライド）使用	
第15回	メンタルヘルスの動向とソーシャルワークの課題			メンタルヘルスをめぐる新たな課題を理解する						視聴覚（スライド）使用 オンデマンド講義	
授業方法（ゼミナール、グループワーク等）	ペアワーク	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り							
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（60%）、レポート課題（20%）定期試験（20%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。</p>										
課題等	講義を通して自分自身で調べたい内容を決め、調べた内容とその考察をレポートにまとめる										
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。お勧め図書は講義内で適宜紹介する。										
教材教科書参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（2021） ISBN978-4-8058-8256-6										
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。										

科目名	精神保健福祉の原理B		科目コード	W31034		単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-24		時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	大原 さやか				授業	講義	単独	
	精神保健福祉士指定科目	必修						形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉の原理Bでは、「精神保健福祉の原理と理念」における人々と環境・状況に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義を理解する。また「精神保健福祉士の役割と機能」では、実践上の着眼点や場面・状況に応じた具体的行為の特性を学ぶ。過去の歴史を学ぶ側面に加え、近年の動向を踏まえたメンタルヘルスソーシャルワークを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>精神障害者へのかかわりについて、①精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く②現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について③精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割について④近年の精神保健福祉士の職域と業務特性などを学ぶ</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神障害者の生活実態①			DVD鑑賞を通して学ぶ①						DVD鑑賞	
第2回	精神障害者の生活実態②			DVD鑑賞を通して学ぶ②						DVD鑑賞	
第3回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念①			「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯、原理・価値						視聴覚（スライド）使用	
第4回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念②			観点・視点、関係性						視聴覚（スライド）使用	
第5回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑤			精神保健福祉士法【1】						視聴覚（スライド）使用	
第6回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑥			精神保健福祉士法【2】						視聴覚（スライド）使用	
第7回	精神保健福祉士の職業倫理①			①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割						視聴覚（スライド）使用	
第8回	精神保健福祉士の職業倫理②			①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割						視聴覚（スライド）使用	
第9回	精神保健福祉士の業務①			精神保健福祉士の業務特性【1】						視聴覚（スライド）使用	
第10回	精神保健福祉士の業務②			精神保健福祉士の業務特性【2】						視聴覚（スライド）使用	
第11回	精神保健福祉士の業務③			精神保健福祉士の業務特性【3】						視聴覚（スライド）使用	
第12回	精神保健福祉士の職業①			精神保健福祉士の職場・職域【1】						視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神保健福祉士の職業②			精神保健福祉士の職場・職域【2】						視聴覚（スライド）使用	
第14回	精神保健福祉士の業務指針①			精神保健福祉士の業務内容と業務指針【1】						視聴覚（スライド）使用	
第15回	精神保健福祉士の業務指針②			精神保健福祉士の業務内容と業務指針【2】						視聴覚（スライド）使用	
授業方法(ゼミナール、ケーススタディ、グループワーク等)	ペアワーク	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り							
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、レポート課題2本（各20%ずつ）、定期試験（30%）で評価する。レポート①は指定課題、レポート②は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。</p>										
課題等	講義を通して自分自身で調べたい内容を決め、調べた内容とその考察をレポートにまとめる										
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。お勧め図書は講義内で適宜紹介する。										
教材教科書参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（2021）ISBN978-4-8058-8256-6										
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。										

科目名	精神保健福祉制度論		科目コード	W31036	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-25	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近年、私たちを取り巻く環境は著しく変化し、メンタルヘル스에課題のある人々が増えている。この授業では、精神保健に関連する法体系や精神疾患、精神障害に関連する法制度や法体系を学ぶため、予習と復習を繰り返しながら学修する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法制度（精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度や、生活支援に関する制度、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題等、障害者総合支援法等）を理解することができる。 ・法制度の理解を深める方法としてwhy、what、who、where、when、How was、How many、How machiに関連づけて考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	精神障害者に関する制度・施策の理解①			オリエンテーション、精神障害者に関する制度・施策の体系を知る						
第2回	精神障害者に関する制度・施策の理解②			精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴；精神障害者に関する制度活用の流れとその事例を学ぶ						
第3回	精神障害者の医療に関する制度①			精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ						
第4回	精神障害者の医療に関する制度②			精神科医療がかかわりも持つ施策を学ぶ						
第5回	精神障害者の医療に関する制度③			医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ						
第6回	精神障害者の医療に関する制度④			精神障害者の医療と関連する施策を学ぶ						
第7回	精神障害者の生活支援に関する制度①			生活支援の基本的な考え方：障害者総合支援法を学ぶ						
第8回	精神障害者の生活支援に関する制度②			相談支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ						
第9回	精神障害者の生活支援に関する制度③			居住支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ						
第10回	精神障害者の経済的支援①			精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割を学ぶ						
第11回	精神障害者の経済的支援②			所得保障にかかわる経済的支援を学ぶ						
第12回	精神障害者の経済的支援③			経済的負担軽減を学ぶ						
第13回	精神障害者と生活困窮①			生活困窮と生活保護制度を学ぶ						
第14回	精神障害者と生活困窮②			生活困窮者自立支援制度を学ぶ						
第15回	精神障害者と生活困窮③（まとめ）			低所得者対策の概要と経済・居住・生活支援などを学ぶ						
授業方法(レ ディマド、75分 ブローニング等)	資料記入	クイズ、小テスト	授業中のノート取り	リフレクションシ ート						
	・15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（7回、15回：計60点） ・課題提出（2・3・4・6・7・8・9・10・11・12・13回：20点） ・リフレクションペーパー（1・5・8・14・15回：10点） ・3分の1以上（5回）欠席した学生は評価の対象としない。 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業予習として指定された法律を読んで用語を調べて授業に臨むこと ・予習、復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること 									
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付された資料を踏まえて用語の意味を調べたり、関連する文献や新聞などの資料を読んだりして予習する（90分程度）。 ・授業で示された課題・問題について整理し、解決に努める復習をすること（90分程度）。 									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『精神保健福祉制度論』、2021、978-4-8058-8255-9</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業、福祉小六法を持参すること。 ・この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 									

科目名	精神障害リハビリテーション論		科目コード	W31037		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	科目ナンバリング	W-PPSW2-26		担当者名	田中 真		授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神障害者のリハビリテーションの具体的イメージを形成する。当事者に対するリハビリテーションの実際や課題を学ぶ。医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションプログラムを紹介し、当事者や他職種と協働して進めるリハビリテーションプロセスを理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。</p> <p>②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。</p> <p>③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション			1. 授業の進め方について 2. 障害の定義（精神疾患における正常と異常）						講義	
第2回	精神障害リハとソーシャルワーク			精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割						講義	
第3回	精神障害リハビリテーションの理念と定義			精神障害リハビリテーションの理念・歴史						講義	
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション			リハビリテーションの分類						講義	
第5回	精神障害リハビリテーションの基本原則			日本における歴史						講義	
第6回	地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義			リカバリーの概念と地域生活						講義	
第7回	精神障害リハビリテーションの対象 チームアプローチ			ICFと精神障害の特性						講義	
第8回	精神障害リハビリテーションのプロセス 医学的リハビリテーションプログラム			作業療法・行動療法他						講義	
第9回	職業的リハビリテーションプログラム			職業リハビリテーションの実際						講義	
第10回	社会的リハビリテーションプログラム			SST・心理教育・他						講義	
第11回	教育的リハビリテーションプログラム			障害学生支援プログラム他						講義	
第12回	家族支援プログラム			家族支援の理念と実際						講義	
第13回	リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム			オープンダイアログ他						講義	
第14回	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション			ピアサポート他						講義	
第15回	依存症のリハビリテーション			依存症の治療プログラムと生活支援						講義	
授業方法 (授業の75% 以上)	授業中のノート取り	グループワーク	ペアワーク	理解度チェック							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の参加態度50点、試験50点</p> <p>出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>										
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと										
事前事後 学修	教科書をよく読んでおくように										
教材 教科書 参考書	<p>・最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 2024</p>										
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように										

科目名	ソーシャルワーク論ⅠA		科目コード	W32001		単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-01		時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤 久				授業	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。また、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、ソーシャルワークの過程について理解する。さらに、ソーシャルワークの記録に係る知識と技術も習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、③ソーシャルワークの過程について、それぞれ利用者の最善の利益を確保、獲得する目標を掲げて、技術や知見を理解することができる。										
授業計画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク（1）			システム理論（一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性）と、生態学理論について学ぶ。							
第2回	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク（2）			バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶ。							
第3回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（1）			治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル及び心理社会アプローチについて学ぶ。							
第4回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（2）			機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチについて学ぶ。							
第5回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（3）			行動変容アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチについて学ぶ。							
第6回	ソーシャルワークの過程（1）			ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）とインテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）について学ぶ。						第1～5回までの内容の小テストを実施	
第7回	ソーシャルワークの過程（2）			アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）について学ぶ。							
第8回	ソーシャルワークの過程（3）			プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点）について学ぶ。							
第9回	ソーシャルワークの過程（4）			支援の実施（支援実施の意義、目的、方法、留意点）とモニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）について学ぶ。							
第10回	ソーシャルワークの過程（5）			支援の終結と事後評価（支援終結と事後評価の目的、方法、留意点）とアフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）について学ぶ。							
第11回	ソーシャルワークの記録の意義と目的（1）			記録によるソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性について学ぶ。						第6～10回までの内容の小テストを実施	
第12回	ソーシャルワークの記録の意義と目的（2）			記録の保存と活用による機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティについて学ぶ。							
第13回	ソーシャルワークの記録の方法と実際（1）			記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）について学ぶ。							
第14回	ソーシャルワークの記録の方法と実際（2）			項目式（フェイスシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）の様式について学ぶ。また、実際の活用例を見る。							
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめを行う。							
授業方法(けずり、プリント、グループワーク)	クイズ、小テスト	グループワーク									
	第6回・11回には前回までの理解度を問う小テストを実施する。第9回・10回には、事例を提示し、グループでディスカッションし発表の機会を設ける。										
評価方法及び評価基準	講義への参加態度20%、2回の小テストと定期試験を80%で評価する。定期試験、小テストでは、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出题する。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時にグループを編成し事例に対してディスカッションし発表する。これらが、講義への参加態度20%の評価基準になる。										
課題等	フィードバックとして的小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。										
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み、事前準備学習を1日当たり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上は行うこと。										
教科書参考書	教科書は、社会福祉士養成講座編（2021）「ソーシャルワークの理論と方法」中央法規 978-4-8058-8242-9 参考書として、「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房 978-4-623-09041-9										
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、授業には毎回出席するよう心掛けてほしい。										

科目名	ソーシャルワーク論ⅠB		科目コード	W32002		単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-02		時間	30時間				
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤 久				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ケアマネジメントの原則を踏まえ、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについてそれぞれの意義や目的、展開過程を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<p>ケアマネジメントの原則を踏まえ、グループやコミュニティを対象としたソーシャルワークの展開を理解することができる。さらに、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、コミュニティオーガニゼーションの概念定義を現在日本国内で起きている事例を基にその内容を知識として定着させる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ケアマネジメントの原則			ケアマネジメントの歴史、適用と対象について学ぶ。							
第2回	ケアマネジメントの意義と方法			ケアマネジメントの意義、プロセス、モデルについて学ぶ。							
第3回	グループワークの意義と目的			グループワークの意義と目的及びグループダイナミクスについて学ぶ。							
第4回	グループワークの原則			個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤課題の原則、制限の原則、継続評価の原則について学ぶ。							
第5回	グループワークの展開過程			準備期、開始期、作業期、終結期について学ぶ。							
第6回	セルフヘルプグループについて			共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割について学ぶ。						第1～5回までの内容の小テストを実施	
第7回	コミュニティワークの意義と目的			ソーシャルインクルージョン、住民参加について学ぶ。							
第8回	コミュニティワークの展開（1）			地域アセスメント、モデリング、地域課題の発見・認識について学ぶ。							
第9回	コミュニティワークの理論的系譜とモデル			社会変容とコミュニティワークの登場、揺籃期から展開期を学ぶ。							
第10回	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義			ソーシャルアドミニストレーションの位置づけ、概念定義、について学ぶ。							
第11回	ソーシャルアクションについて			ソーシャルアクションの概念とその意義について学ぶ。						第6～10回までの内容の小テストを実施	
第12回	スーパービジョンの意義、目的、方法（1）			スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係について学ぶ。							
第13回	スーパービジョンの意義、目的、方法（2）			スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法について学ぶ。							
第14回	コンサルテーションの意義、目的、方法			コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルテーションの関係、コンサルテーションの方法について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめを行う。							
授業方法(フ ォーマット、75分 の授業等)	クイズ、小テスト	グループワーク									
	第6回・11回目には前回までの理解度を問う小テストを実施する。第8・9回でコミュニティワークの事例を提示し、グループでディスカッションし発表の機会を設ける。										
評価方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、2回の小テストと定期試験を80%で評価する。定期試験、小テストでは、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出题する。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時にグループを編成し、事例に対してディスカッションし発表する。これらが、講義への参加態度20%の評価基準になる。										
課題等	フィードバックとしての小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。										
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み、事前準備学習を1日当たり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上は行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書は、社会福祉士養成講座編（2021）「ソーシャルワークの理論と方法」中央法規 978-4-8058-8242-9 参考書として、「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房 978-4-623-09041-9										
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、授業には毎回出席するよう心掛けてほしい。										

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ A		科目コード	W32003		単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF3-03.			30時間				
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業では、多様化、複雑化する社会構造の仕組みを理解し、ミクロ・メゾ・マクロにおける課題解決に取り組むべく援助関係の構築方法や、社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を理論的に学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム理論を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの機能を説明することができる。 ・ソーシャルワークの過程とそれにかかわる価値・知識・技術について理解を深めることができる。 ・さまざまな実践場面におけるソーシャルワーカーの役割について説明することができる。 ・事例を通して、ソーシャルワークの展開過程とプランニングを作成することができる。 ・ソーシャルワークの関連技術・方法であるネットワークング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーションを説明することができる。 										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修							備考	
第1回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割①オリエンテーション		シラバス説明 求められるソーシャルワークの機能と役割を学ぶ。								
第2回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割②		ソーシャルワークの機能と役割：支援が必要な個人と家族地域のニーズ発見、アセスメント、社会資源の調整、包括的な支援体制、体制構築、人材育成を学ぶ。								
第3回	ソーシャルワークにおける面接①		面接の意義・目的を学び、面接の場面と構造を学ぶ。								
第4回	ソーシャルワークにおける面接②		面接技法、面接の展開過程を事例を通して学ぶ。								
第5回	ソーシャルワークの援助関係①		ソーシャルワークにおける援助関係の形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。								
第6回	ソーシャルワークの援助関係②		ソーシャルワークにおける形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。								
第7回	社会資源の開発とソーシャルアクション①		ソーシャルワークにおける社会資源の位置づけを実践事例を通して学ぶ。（中間まとめ）								
第8回	社会資源の開発とソーシャルアクション②		社会資源の開発とソーシャルアクションを学ぶ。地域支援計画書の作成方法を学ぶ①								
第9回	社会資源の開発とソーシャルアクション③		あなたのまち（地域）の課題								
第10回	社会資源の開発とソーシャルアクション③		ソーシャルアクションの定義と変遷、その実際を学び、事例を通して学びを習得する。地域支援計画作成の方法を学ぶ②								
第11回	社会資源の開発とソーシャルアクション④		ソーシャルアクションの定義と変遷、その実際を学び、事例を通して学びを習得する。地域支援計画作成の方法を学ぶ③								
第12回	社会資源の開発とソーシャルアクション⑤		ネットワークングの意義と目的、方法を知る。								
第13回	ソーシャルワークの関連技術・方法①		ネットワークングとコーディネーションの意義と目的、方法を知る。								
第14回	ソーシャルワークの関連技術・方法②		ネゴシエーション準備の4つの原則、方策や計画を立てる。								
第15回	ソーシャルワークの関連技術・方法③		ファシリテーションとプレゼンテーションを学び実際の事例を通して理解を深める。（まとめ）								
授業方法(レディマド、7対1、グループ等)	資料記入	発表、ポスター作成	授業中のノート取り	リフレクションシート							
	9回、10回個人発表あり。15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。										
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（7回、15回：計60点） ・レポート・発表課題（9回、10回、11回：20点） ・リフレクションペーパー（1・2・3・4・5・6・8・12・13・14：計20点） ・3分の1以上（5回）欠席した学生は評価の対象としない。 										
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは次時間に返却するので間違いを修正して復習しておくこと。 ・レポート課題はアプリにより提出する。 										
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付された資料を踏まえて用語の意味を調べたり、関連する文献や新聞などの資料を読んだりして予習する（90分程度）。 ・授業で示された課題・問題について整理し、解決に努める復習をすること（90分程度）。 										
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】 空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022、9784623090969</p> <p>ほか、適宜指示する。</p>										
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。										

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB		科目コード	W32004		単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF3-04.		時間	30時間	学年			
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業では、多様化、複雑化する社会構造を踏まえて、生活課題を解決するための援助関係の構築方法や社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を理論的に学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークとICTの関係性と意義について説明することができる。 ・家族支援の必要性とその展開方法について理解を深めることができる。 ・災害ソーシャルワークの展開過程と留意点を説明することができる。 ・スピリチュアルにおけるソーシャルワークの役割について説明することができる。 ・多文化ソーシャルワークの役割について理解を深めることができる。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション			シラバス説明、アプローチ方法の体系を中心に学ぶ。							
第2回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報①			ICTとソーシャルワークの関係性、ICT活用の課題と個人情報保護制度を学ぶ。							
第3回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報②			ICTとソーシャルワークの関係性、ICT活用の課題と個人情報保護制度を学ぶ。							
第4回	カンファレンスと事例分析①			多様なカンファレンスを知る。							
第5回	カンファレンスと事例分析②			力動的・循環的プロセスとしてのカンファレンスを学ぶ。							
第6回	カンファレンスと事例分析③			事例分析の方法、マイクロ・メゾ・マクロをつなぐカンファレンス							
第7回	家族支援のソーシャルワーク①			家族支援が求められる意義、ソーシャルワークにおける基本的な視点を学ぶ。(中間まとめ)							
第8回	家族支援のソーシャルワーク②			家族支援の展開の実際と課題を考える。							
第9回	災害とソーシャルワーク①			災害の定義を学び、災害ソーシャルワークの定義や被災者の状況を学ぶ。							
第10回	災害とソーシャルワーク②			大規模自然災害の歴史と災害福祉、災害ソーシャルワークを学ぶ。							
第11回	スピリチュアルとソーシャルワーク			スピリチュアリティの形成と内容、展開の実際と課題を知る。							
第12回	多文化主義とソーシャルワーク①			多文化主義と多文化ソーシャルワークとは何か、グローバルとソーシャルワークを学ぶ。							
第13回	多文化主義とソーシャルワーク②			多文化主義とソーシャルワークの展開の実際と課題を知る。							
第14回	ソーシャルワークにおける総合的・包括的支援の実際			総合的包括的支援の考え方を学び、支援の実際を知る。ソーシャルワークの動向と課題							
第15回	ソーシャルワークの動向と課題			ソーシャルワーカーへの社会からの期待、ジェネラリスト・ソーシャルワークの確立等の近況を知る。(まとめ)							
授業方法(レクチャー・グループワーク等)	資料記入	授業中のノート取り	授業中のノート取り								
	15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。										
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(7回、15回:計60点) ・レポート課題(11回、12回:計20点) ・リフレクションペーパー(1・2・3・4・5・6・8・9・10・13:計20点) ・3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。 										
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは次時間に返却するので間違いを修正して復習しておくこと。 ・レポート課題はアプリにより提出する。 										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付された資料を踏まえて用語の意味を調べたり、関連する文献や新聞などの資料を読んだりして予習する(90分程度)。 ・授業で示された課題・問題について整理し、解決に努める復習をすること(90分程度)。 										
教材教科書参考書	【教科書】 空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』2022 9784623090969 ほか、適宜指示する。										
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。										

科目名	社会福祉調査法		科目コード	W32005	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-03	時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 詩織			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会の実態を知るためには、それを調べる必要があります。その調べ方についての知識体系が社会調査法です。この授業では、社会調査に関する基礎的な概念・方法について学び、量的調査および質的調査の企画の仕方、実施の仕方について学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1、5-2、5-3に関連している</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義を理解する ・社会調査における倫理を理解する ・量的調査の方法を理解する ・質的調査の方法を理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション・社会調査の意義		社会調査の意義と目的について理解する							
第2回	社会調査の歴史の変遷		社会調査の歴史の変遷について理解する							
第3回	社会調査のデザイン (1)		先行研究レビューと調査目的と仮説の関係を理解する							
第4回	社会調査のデザイン (2)		社会調査の対象について理解する							
第5回	社会調査における倫理		社会調査を行う上で留意すべき倫理について理解する							
第6回	社会調査における個人情報保護		社会調査を行う上で留意すべき個人情報保護について理解する							
第7回	社会調査で用いる統計法		社会調査で用いる統計の概要を理解する							
第8回	統計で用いる尺度について		統計で用いられる尺度について理解する							
第9回	量的調査の方法 (1)		量的調査とは何か理解する							
第10回	量的調査の方法 (2)		アンケート調査と項目設定について							
第11回	量的調査の方法 (3)		量的調査実施に当たってのIT活用法について理解する							
第12回	質的調査の方法 (1)		質的調査とは何か理解する							
第13回	質的調査の方法 (2)		観察法、面接法について理解する						グループワーク	
第14回	質的調査の方法 (3)		記録の取り方について理解する							
第15回	質的調査の方法 (4)		質的データの分析方法について理解する (ライフストーリー、エスノグラフィー等)							
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第10回と第13回から第15回は、グループワークを行い、研究者と被検者の立場に立ったデモンストレーションを行う。									
評価方法 及び 評価基準	学期末レポート (60点) と、参加態度 (40点) によって評価を行います。									
課題等	学期末レポートはgoogle formsにアップロードしていただきます。									
事前事後学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第5巻 社会福祉調査の基礎』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8235-1)									
留意点	・IT活用としてはgoogle formsを用いたアンケート作成を行います。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ		科目コード	W32011	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF1-04	時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・駒ヶ嶺裕子・齊藤隆之			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本科目は、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワークの知識と技術の習得及びソーシャルワークの価値規範や倫理の基本的事項の理解を図るために、具体的な援助場面を想定したグループディスカッションやロールプレーイング等の活動を中心とする演習形式で行う。なお、ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ(専門)の前段に位置付けられる科目である。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-1, 5-3, 5-4に関連している</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的能力を、身につけるための心構えを持つことができている。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できている。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけている。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられている知識と技術を実践的に理解できている。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自己覚知と他者理解			自己理解と他者理解について学ぶ。本演習で用いる振り返りシートの記入方法の指導を行う。						
第2回	基本的なコミュニケーション技術(1)			言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約など)を学ぶ。						
第3回	基本的なコミュニケーション技術(2)			非言語技術(表情、態度、身振り、位置取りなど)を学ぶ。						
第4回	基本的な面接技術(1)			面接の構造化、場の設定(面接室・生活場面・自宅など)について学ぶ。						
第5回	基本的な面接技術(2)			ツールの活用、電話面接、ウェブ会議システムやe-mailによる情報交換について学ぶ。						
第6回	ソーシャルワークの展開過程(1)			事例を用いてケースの発見、インテークまでの過程を学ぶ。						
第7回	ソーシャルワークの展開過程(2)			事例を用いてアセスメントの過程を学ぶ。						
第8回	ソーシャルワークの展開過程(3)			事例を用いてプランニングの過程を学ぶ。						
第9回	ソーシャルワークの展開過程(4)			事例を用いて支援の実施とモニタリングまでの過程を学ぶ。						
第10回	ソーシャルワークの展開過程(5)			事例を用いて支援の終結と事後評価、アフターケアまでの過程を学ぶ。						
第11回	ソーシャルワークの記録			支援経過の把握と記録について学ぶ。						
第12回	グループダイナミクスの活用			グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)について学ぶ。						
第13回	グループワークの展開過程			事例を用いて準備期・開始期・作業機・終結期までの流れを学ぶ。						
第14回	プレゼンテーションの技術(1)			個人プレゼンテーションを体験する。						
第15回	プレゼンテーションの技術(2)			グループプレゼンテーションを体験する。						
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	資料記入	PBL(問題解決型学習)	発表、ポスター作成	リフレクションシート			
	第14回と15回は2週にわたってICTを活用したプレゼンテーションを行う。									
評価方法及び評価基準	<p>○平常点評価65%とレポート試験35%による総合評価とする。</p> <p>・「演習授業における達成度をみるために毎回振り返りシートの作成4点満点×12回(第1回と第14/15回を除く)=48点満点」＋「第14回15回のプレゼンテーション資料の作成と発表17点満点」＋「定期試験に替えるレポート35点満点」で評価をする。ルーブリック評価による評価を実施するので第1回オリエンテーション時に説明を行う。なお、3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。</p>									
課題等	授業終わりに振り返りシートを課し、次回授業で返却する。第14回、15回のプレゼンテーションではICTを活用する。期末レポート試験の課題はオンライン授業ファイルを通じて配布する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書の該当部分等を読み事前準備学習を行うこと。加えて、次の演習授業回で事例検討を行う際に用いるプリントを配布するので、予め一読し自分なりの考えをまとめて本授業に望むこと。予習は90分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教科書参考書	教科書 社会福祉士養成講座編(2021年)『13巻 ソーシャルワーク演習(共通)』中央法規 ISBN 978-4-8058-8865-0 参考書 いたう総研(2025年)『見て覚える国試ナビ2026』(中央法規) ※毎年7月発行のため最新版を入手してください。									
留意点	演習では積極的発言と共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32040	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-05	時間	30時間				
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・丸山龍太				授業形態	演習	クラス分け
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>									
到達目標	<p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養うことができる。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ソーシャルワーカーの価値と倫理		事例を通じてソーシャルワーカーの価値と倫理について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。						予習シートと振り返りシートの様式説明	
第2回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(1)		複雑な家庭環境にあり特に児童虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第3回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(2)		複雑な家庭環境にあり特に障害者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第4回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(3)		複雑な家庭環境にあり特に高齢者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第5回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(4)		複雑な家庭環境にあり特に配偶者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第6回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(5)		複雑な家庭環境にあり特にひきこもりの人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第7回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(6)		複雑な家庭環境にあり特に貧困問題が発生しているケースの事例検討を行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第8回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(7)		複雑な家庭環境にあり特に終末期ケアの状態の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第9回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(8)		被災に伴い複雑な家庭環境となり、失業、貧困、アルコール依存症の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第10回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(9)		複雑な家庭環境にあり特に8050問題のようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第11回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(10)		要介護高齢者の発生に加え、障害を有する子ども2人のトリプルケアのようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第12回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(11)		夫の不就労と妻へのDV、それに伴う子どもの深夜徘徊、飲酒などの非行が絶えず、不登校時のいる家庭のケースで事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第13回	その他の危機状態にある事例に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは		精神疾患を患い孤立し、ごみ屋敷状態で、社会的な支援を拒み続けるケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第14回	ソーシャルワーカーが関わる権利擁護活動を通じたソーシャルアクション		外国人労働者家庭を地域で支えていくために生じた様々な問題とその支援過程から学ぶ。事例を踏まえて意見交換を行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。学習成果について一人ひとりに発表してもらい、総論的振り返り、グループワーク							
授業方法(予習・演習・振り返り)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート				
	各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。									
評価方法及び評価基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習課題(予習シート)をだす。これを事前学習とする。また、当日配布するワークシートにある、それぞれのビネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習課題となる。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書の該当部分等を読み、事前準備学習を行うこと。加えて、次の演習授業回で事例検討を行う際に用いるプリントを配布するので、予め読み自分なりの考えをまとめて本授業に望むこと。この予習は90分以上行うこと。復習は当該回の配布プリントを読み返し、理解が不十分だった制度や福祉サービス、ソーシャルワークの技法等について調べる。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32041	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-06	時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・丸山龍太			授業	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。さらに、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>									
到達目標	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について理解することができる。さらに、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。									
授業計画										
回	主題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程		マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。						予習シートと振り返りシートの様式説明	
第2回	実践モデルとアプローチ(1)		実践モデルとアプローチについて再確認する。1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第3回	実践モデルとアプローチ(2)		前回到続き、1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第4回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(1)		事例を通じて、ケースの発見場面を体験する、ロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第5回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(2)		事例を通じて、インテーク場面を体験する、ロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第6回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(3)		事例を通じて、アセスメント場面を体験する、クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第7回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(4)		プランニング① アセスメント結果を踏まえプランニングの下書きをする。その下書きについて意見交換する。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第8回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(5)		プランニング② 前回の授業成果を踏まえて支援計画を立て、説明場面をロールプレイで再現する						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第9回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(6)		事例を通じて、支援の実施場面について学ぶ。適宜ロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第10回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(7)		事例を通じてモニタリングの場面について学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第11回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(8)		事例を通じて支援の終結と事後評価の場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第12回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(9)		事例を通じてアフターケアの場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第13回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(10)		特にアウトリーチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。家庭訪問での面接場面をロールプレイで再現する。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第14回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(11)		チームアプローチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。多職種チームによるカンファレンス時の司会者であるソーシャルワーカーの立場となって会議の進行をロールプレイで学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。学習成果について一人ひとりに発表してもらおう。						最終回に授業評価アンケートがある。グループワーク	
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート	各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。			
評価方法及び評価基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらおう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらおう。なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習課題(予習シート)をだす。これを事前学習とする。また、当日配布するワークシートにある、それぞれのビネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習課題となる。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書の該当部分等を読み、事前準備学習を行うこと。加えて、次の演習授業回で事例検討を行う際に用いるプリントを配布するので、予め読み自分なりの考えをまとめて本授業に望むこと。この予習は90分以上行うこと。復習は当該回の配布プリントを読み返し、理解が不十分だった制度や福祉サービス、ソーシャルワークの技法等について調べる。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ		科目コード	W32042		単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-07		時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太					授業 形態	演習	クラス分け
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践線的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している</p>										
到達目標	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	プレゼンテーションについて		プレゼンテーションについて学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。							予習シートと振り返りシートの様式説明	
第2回	ネットワーキングについて		事例をつかってネットワーキングについて学ぶ。ネットワーキングの重要性について意見交換する。							予習シートと振り返りシートによる評価	
第3回	コーディネーションについて		事例を使ってコーディネーションについて学ぶ。コーディネーションの重要性について意見交換する。							"	
第4回	ネゴシエーションについて		事例を使ってネゴシエーションについて学ぶ。ネゴシエーションの重要性について意見交換する。							"	
第5回	ソーシャルアクションについて		事例を使ってソーシャルアクションについて学ぶ。ソーシャルアクションの重要性について意見交換する。							"	
第6回	地域住民に対するアウトリーチ		事例を使って地域住民に対するアウトリーチの手法を学ぶ。ロールプレイする。							"	
第7回	地域住民のニーズ把握		事例を使って地域住民のニーズ把握の手法を把握し、その場面を再現する。							"	
第8回	地域アセスメント		事例を使って地域アセスメントを行い、その場面を再現する。							"	
第9回	地域福祉の計画		事例を使って地域の計画の作成手法を学び、必要性を討論する。							"	
第10回	地域における組織化		事例を使って地域における組織化について学び、その場面を再現する。							"	
第11回	社会資源の活用		事例を使って社会資源の活用について学び、その場面を再現する。							"	
第12回	社会資源の調整		事例を使って社会資源の調整について学び、その場面を再現する。							"	
第13回	社会資源の開発		事例を使って社会資源の開発について学び、その場面を再現する。							"	
第14回	サービスの評価		事例を使ってサービスの評価について学び、その場面を再現する。							"	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							最終回到授業評価アンケートがある	
授業方法(ディプロマ、7対1グループ等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	資料記入						
評価方法及び評価基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらう。なお、主席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。										
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれ別のビネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。										
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習』中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。										

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ		科目コード	W32043		単位数	2単位	対象	2年	開講	後期	
			科目ナンバリング	W-PPPF2-08		時間	30時間	学年		学期		
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太				授業 形態	演習	クラス分け		
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>											
到達 目標	<p>実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解することができる。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解することができる。</p>											
授 業 計 画												
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考		
第1回	事例研究の下準備(1)		実習体験を一般化するためにはソーシャルワークの専門知識が必要である。そのため文献調査の手法について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。							予習シートと振り返りシートの様式説明		
第2回	事例研究の下準備(2)		実習体験から深く考察し、学術的な知識として比較検討したい素材を洗い出す。まずは質よりも量でより多くのトピックを出す。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第3回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(1)		前回授業で出したトピックの中から、3つ程度に絞り込み、発表する。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第4回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(2)		前回授業で絞り込んだ3つのテーマについて、どのような実習経験をし、文献調査結果と比較考察していく。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第5回	事例研究発表に向けた論理展開の確認		前回授業での作業の結果を発表し、出席者からコメントをもらう。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第6回	再分析と結果の吟味、発表の予行		とくに事例研究したい事柄を1つに絞り、より多くの文献を集め、考察していく。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第7回	事例研究発表(1)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第8回	スーパービジョン(1)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第9回	事例研究発表(2)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第10回	スーパービジョン(2)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第11回	事例研究発表(3)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第12回	スーパービジョン(3)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第13回	事例研究発表(4)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第14回	スーパービジョン(4)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。							予習シートと振り返りシートによる評価		
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。							最終回に授業評価アンケートを実施		
授業方法(フ ォーム、7行 ブ、ラニング等)	グループワーク		発表、ポスター作成									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、主席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。</p>											
課題等	<p>毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにあるピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。</p>											
事前事後 学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり90分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>											
教材 教科書 参考書	<p>演習時に必要な資料や文献を指示する。</p>											
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>											

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）A		科目ナンバリング	W32044	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目コード	W-PPPF2-09	時間	30時間				
区分	実践系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修	担当者名	大原 さやか				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワークの基本となるソーシャルワークの概要から展開技法（インテーク、アセスメント、面接技術、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント）について学ぶ。また、精神保健福祉分野における家族支援（意識調査、感情表出と再発など）についても学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している</p>									
到達目標	<p>①精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を学ぶ。</p> <p>②精神障害および精神保健福祉の課題をもつ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学ぶ。</p> <p>③精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義や精神保健福祉の向上について学ぶ。</p> <p>④クライアントに対する支援方法を学ぶことと同様に、自分自身のことを考えていくことができるようにする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ソーシャルワークの概要①		ソーシャルワークの構成要素、展開過程、基本視点						視聴覚（スライド）使用	
第2回	ソーシャルワークの概要②		マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開						視聴覚（スライド）使用	
第3回	ソーシャルワークの概要③		精神科ソーシャルワークについての理念（リカバリーなど）						視聴覚（スライド）使用	
第4回	ソーシャルワークの展開技法①		インテーク、アセスメント、面接技法						視聴覚（スライド）使用	
第5回	ソーシャルワークの展開技法②		グループワーク、アウトリーチ、事例分析						視聴覚（スライド）使用	
第6回	ソーシャルワークの展開技法③		ケアマネジメント①（ケアマネ誕生、定義、基本理念、基本原則、構成要素）						視聴覚（スライド）使用	
第7回	ソーシャルワークの展開技法④		ケアマネジメント②（プロセスと機能 相談窓口）						グループワーク	
第8回	ソーシャルワークの展開技法⑤		ケアマネジメント③（プロセスと機能 アセスメント）						グループワーク	
第9回	ソーシャルワークの展開技法⑥		ケアマネジメント④（プロセスと機能 アセスメント）						グループワーク	
第10回	ソーシャルワークの展開技法⑦		ケアマネジメント⑤（プロセスと機能 ケア計画の立て方）						グループワーク	
第11回	ソーシャルワークの展開技法⑧		ケアマネジメント⑥（プロセスと機能 ケア会議の進め方）						グループワーク	
第12回	ソーシャルワークの展開技法⑨		ケアマネジメント⑦（プロセスと機能 サービス実施、モニタリング、エバリュエーション）						グループワーク	
第13回	精神保健福祉分野における家族支援		家族の意識調査、家族の感情表出による再発率、支援方法						視聴覚（スライド）使用	
第14回	コミュニティワーク①		コミュニティワークの意義、展開過程、原則、予防的アプローチ						視聴覚（スライド）使用	
第15回	コミュニティワーク②		居住地域のコミュニティワーク実践を各自で報告する						各自報告	
授業方法（ゼミなど、PBL、演習等）	PBL（問題解決型学習）	グループワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成						
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、宿題（30%）定期試験（40%）で評価する。宿題はその時の講義内容を踏まえたうえで、自分の事例として作成する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために、精神保健福祉関連の文献等を読む。参考文献は適宜紹介する。ソーシャルワーク支援過程（生育歴、アセスメント、支援計画）を、自分自身の事例を通して作成して、その都度提出する。									
事前事後学修	ロールプレイやグループワークを通して学んだ内容を理解するために、講義終了後に、ソーシャルワーク支援過程を自分自身の事例を通して再学習する。									
教材教科書参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第6巻「ソーシャルワークの理論と方法」（精神専門）中央法規出版（2021）ISBN978-4-8058-8257-3									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）B		科目ナンバリング	W32045	単位数	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
			科目コード	W-PPPF2-10	時間	30時間				
区分	実践系科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修	担当者名	丸山 龍太				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ソーシャルワークの基本となるソーシャルワークの展開技法（コミュニティソーシャルワーク）について学ぶ。また、精神保健福祉分野における多職種連携・多機関連携、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からアクションへの展開、関連分野における精神保健福祉士の実践展開を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>到達目標は以下の点である。</p> <p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する</p> <p>②精神医療、精神障害者福祉における多職種連携、多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する</p> <p>③精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入、組織活動に展開する概念と方法について理解する</p> <p>④精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	コミュニティワーク③		地域生活支援、ソーシャルインクルージョン、地域包括ケアシステム						講義・Think pair share	
第2回	コミュニティワーク④		普及啓発、地域住民の精神保健福祉活動への参画、予防的アプローチ						講義・Think pair share	
第3回	多職種連携、多機関連携①		多職種連携、多機関連携（チームアプローチ）の連携の意義と目的、多職種連携、多機関連携の留意点						講義・Think pair share	
第4回	多職種連携、多機関連携②		チームビルディング、チームの形態と特徴						講義・Think pair share	
第5回	多職種連携、多機関連携③		連携における精神保健福祉士の役割、多職種連携、多機関連携の実際						講義・Think pair share	
第6回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①		ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、組織と精神保健福祉士の関係性						講義・Think pair share	
第7回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法②		組織介入、組織改善の実践モデル						講義・Think pair share	
第8回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③		組織運営管理の実際						講義・Think pair share	
第9回	個別支援からソーシャルアクションへの展開①		基本的視点、個別支援から地域における体制整備						講義・Think pair share	
第10回	個別支援からソーシャルアクションへの展開②		政策提言、政策展開						講義・Think pair share	
第11回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③		精神障害者の地域移行、地域定着に関わる展開						講義・Think pair share	
第12回	個別支援からソーシャルアクションへの展開④		事例から学ぶソーシャルアクションへの展開過程						講義・Think pair share	
第13回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開①		学校、教育分野、産業分野						講義・Think pair share	
第14回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開②		司法分野、その他						講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめを実施						講義・Think pair share	
授業方法(ゼミナール、PBL等)	誘導ディスカッション	PBL（問題解決型学習）	グループワーク	授業中のノート取り						
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。</p> <p>レポート課題は、能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。</p> <p>試験は、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。</p> <p>参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」を用いて実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	第8回目を目途にレポート課題を提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。									
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。									
教材教科書参考書	坂野憲司・福富律編著『ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』弘文堂、2023年（ISBN 978-4-335-61128-5）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉演習 I		科目コード	W32029		単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-11		時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系科目	選択必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>この授業はメンタルヘルスにかかわる全ての人々を対象とし、精神保健福祉士に求められる自己覚知や、利用者理解の基礎的な知識と技術について実践的に習得する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助職として求められる自己覚知や利用者理解の方法を学び、理解を深めることができる。 当事者のごく当たり前の生活とは何かを事例を通して考察することができるようになる。 精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について考察できるようになる。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神保健福祉演習とは			オリエンテーション 精神保健福祉演習の位置づけ、意義、視点について 自己覚知①							
第2回	ソーシャルワークの過程を通じた援助			ソーシャルワークのケアマネジメント技法の理解 自己覚知②							
第3回	ソーシャルワークの過程を通じた援助			ソーシャルワークのケアマネジメント技法の理解 自己覚知③							
第4回	ソーシャルワークの過程を通じた援助			ソーシャルワークのケアマネジメント技法の理解 精神障害者、困難を有する若者の理解							
第5回	基本的なコミュニケーション技術の習得			コミュニケーション技術の伝達、認知障害の理解 他者理解①							
第6回	基本的なコミュニケーション技術の習得			コミュニケーション技術の伝達、認知障害の理解 他者理解②							
第7回	基本的なコミュニケーション技術の習得			コミュニケーション技術の伝達、認知障害の理解 他者理解③							
第8回	個別面接：基本的な面接技術の習得			基本的な面接技術の習得 言葉で表現が難しい方々を想定した方法①							
第9回	個別面接：基本的な面接技術の習得			基本的な面接技術の習得 言葉で表現が難しい方々を想定した方法②							
第10回	個別面接：基本的な面接技術の習得			基本的な面接技術の習得 言葉で表現が難しい方々を想定した方法③							
第11回	個別面接：基本的な面接技術の習得			基本的な面接技術の習得 言葉で表現が難しい方々を想定した方法④							
第12回	グループワークの展開			グループダイナミクス活用技術の習得 PM理論を活用する①							
第13回	グループワークの展開			グループダイナミクス活用技術の習得 PM理論を活用する②							
第14回	社会資源の活用・調整・開発			海外の現状とソーシャルアクションを学ぶ①							
第15回	社会資源の活用・調整・開発			海外の現状とソーシャルアクションを学ぶ② イタリアの社会的協同組合の歴史と概要							
授業方法(ディプロマ・ポリシー等)	グループワーク	発表、ポスター作成	ロールプレイング	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り	リフレクションシート	15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。			
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク、発表、ロールプレイングなど授業に参加する姿勢など (30点) 社会復帰や障害者の人権に関するレポート課題：30点 リフレクションシート (2回～11回：計40点) 3分の1以上 (5回) 欠席した学生は評価の対象としない。 										
課題等	授業終わりに振り返りシートを課し、次回授業で返却する。										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前に配付された資料を踏まえて用語の意味を調べたり、関連する文献や新聞などの資料を読んだりして予習する (90分程度)。 授業で示された課題・問題について整理し、解決に努める復習をすること (90分程度)。 										
教材教科書参考書	テキスト：福祉臨床シリーズ編集委員会 編「ソーシャルワーク実習・実習指導 (精神専門)」新・精神保健福祉士シリーズ 8 弘文堂 (ISBN：978-4-335-61132-2) 参考図書は授業中に指示します。										
留意点	この科目は、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目である。										

科目名	精神保健福祉演習Ⅱ		科目コード	W32030		単位数	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-12		時間	60時間				
区分	実践系科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太				授業形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉演習Ⅱを基礎とし、更なる技術向上を図る。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>										
到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための4拠心保健福祉士の専門性の基礎を獲得する。 ② " " のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③ " " のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④ " " を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考				
第1回	事例演習：当事者の人生とリカバリー①	事例を通して当事者の生活のしづらさを学び、クライアントの理解に繋げる		第16回	課題に対応した支援体制⑥	事例を通して司法ソーシャルワークの実際を理解する					
第2回	事例演習：当事者の人生とリカバリー②	事例を通して当事者の体験談から、クライアントの理解に繋げる		第17回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題①	事例を通して児童虐待の支援方法を理解する					
第3回	事例演習：当事者の人生とリカバリー③	事例を通して当事者の語りから、リカバリーの理解を図る		第18回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題②	事例を通して不登校とスクールソーシャルワークの支援方法理解する					
第4回	医療機関から地域生活へ①	事例を通して利用期間における退院支援の方法を理解する		第19回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題③	事例を通して発達障害のある方への支援方法を理解する					
第5回	医療機関から地域生活へ②	事例を通して地域移行支援とケアマネジメントを体系的に学ぶ		第20回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題④	事例を通してひきこもり支援の実際を理解する					
第6回	医療機関から地域生活へ③	事例を通して地域生活継続支援の流れを理解する		第21回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題⑤	事例を通して産業メンタルヘルスの実際を理解する					
第7回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援①	事例を通して家族教室・心理教育を学ぶ		第22回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題⑥	事例を通して地域包括支援センターの実際を理解する					
第8回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援②	事例を通して家族療法的視点からのアプローチを理解する		第23回	地域への働きかけとインフォーマルケア①	事例を通して市町村行政を通じた地域包括ケアの方法を理解する					
第9回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援③	事例を通してアウトリーチの方法を理解する		第24回	地域への働きかけとインフォーマルケア②	事例を通してピアサポートを通じた地域包括ケアの方法を理解する					
第10回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援④	事例を通してデイケアを基盤とした包括的な支援を理解する		第25回	地域への働きかけとインフォーマルケア③	事例を通して地域の基盤整備を通じた地域包括ケアの方法を理解する					
第11回	課題に対応した支援体制①	事例を通して危機的状況への介入を理解する		第26回	地域への働きかけとインフォーマルケア④	事例を通してボランティアの立場からの地域援助を理解する					
第12回	課題に対応した支援体制②	事例を通して就労支援と特例子会社を理解する		第27回	スーパービジョン体験①	実習におけるスーパービジョン体験を通じてスーパービジョンを実践する					
第13回	課題に対応した支援体制③	事例を通してアルコール依存・薬物依存の支援方法を学ぶ		第28回	スーパービジョン体験②	スーパービジョンと専門職としての成長を自己覚知を通じて理解する					
第14回	課題に対応した支援体制④	事例を通して貧困、低所得、ホームレス支援の実際を学ぶ		第29回	スーパービジョン体験③	精神保健福祉現場のジレンマとスーパービジョンを通じて専門家として心構えを理解する					
第15回	課題に対応した支援体制⑤	事例を通して自殺問題への対策を理解する		第30回	1年のまとめ	これまでの演習を基に1年間の総まとめを行う					
授業方法(付子モド、75分授業等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成					
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度(100%)で評価する。グループワークを通して、事例演習に応じた支援案等を立案、支援案に対する検討、それらを踏まえた上でのロールプレイ、振り返り及び再検討を繰り返すので、積極的な発言、考察が必要である。										
課題等	演習担当者は、演習作成、演習実施の準備を進める。TEAMS上で作成された演習内容を確認し、各自事前学習を行う。それぞれ、1回の演習につき予習・復習の合計は180分程度必要となる。										
事前事後学修	演習担当者は、演習問題の作成、当日の演習実施、振り返り等をすべて取り仕切る。担当者には、予め演習問題を期日までにTEAMSにアップロードすることを課す。アップロードがなければ、受講生が作業せず演習が成立しないので、注意すること。演習が成立しない場合、授業への参加度に関して検討を行うこととなる。										
教材教科書参考書	坂野憲司・福富律編『ソーシャルワーク演習(精神専門)～臨床ソーシャルワーク事例集』弘文堂、2022年 (ISBN978-4-335-61131-5)										
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク関係の知識・技術は、関連科目で習得済であることを前提として授業展開を行うので、不足する部分は予め補っておくこと。積極的な発言、考察を求めるが、他者への配慮を忘れずに、節度ある取り組みに注意すること。										

科目名	社会福祉実習基礎論		科目コード	W34110		単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-13		時間	30時間				
区分	実践系科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺裕子・宮田将希				授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕										
	大きく二つの内容を学ぶ。一つは、ソーシャルワーク実習の意義と目的及び実習で学ぶべき内容及び実習を行う上で留意すべき事項等を確認し、実習に備えた学びを深める。他の一つは、「実習先施設・機関の業務内容とソーシャルワーカーの役割と業務」をテーマに、ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主要な業務内容、ソーシャルワーカーの役割と業務、及び社会福祉実習に向かう心構えなどについて学ぶ。										
到達 目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕										
	ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1,5-2,5-3に関連している。										
①ソーシャルワーク実習の意義や目的を自身の言葉で説明することができる。 ②実習に向けての意識と意欲を高め、積極的な実習前学習に取り組むことができる。 ③ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主な業務、ソーシャルワーカーの担う役割等について理解を深める。 ④多様な施設・機関の体験学習または見学実習の振り返りをし、発表する。											
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション 予習レポートや振り返りシートの作成			授業内容の説明。 記載すべき内容、記述上の留意点と評価規準等を確認する。							
第2回	社会福祉実習のねらいと学ぶべき内容 ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の 理解			「ソーシャルワーク実習のガイドライン」等を通して、実習の意義と目的 及び実習で学ぶべき内容の概略を知る。(教科書：序章&第1章第1節 巻 末資料)ソーシャルワーク実習を学ぶ施設・機関について理解する。実習 機関・施設におけるソーシャルワーク実習の内容を知る。(第2章第3節)							
第3回	実習におけるスーパービジョン 実習におけるリスクマネジメント			実習スーパービジョンの意義及び実習期間中に行われるスーパービジョン の内容と方法等について理解する。(第1章第2節&第4章第1節) 実習に関連したリスクとその対応の仕方を理解する (第1章第5節)							
第4回	外部講師による講義 1			「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」や「ソーシャルワーカーの 倫理綱領」等で示されているソーシャルワークの価値・知識・技術などに ついて、実習を通して学ぶ意義を理解する。 (教科書：第3章第1節の4 第6章11節)							
第5回	外部講師による講義 2			外部講師の講義についての「振り返りレポート」と「疑問点」をもとに発表・協議 を行い、ソーシャルワークの価値・知識・技術の重要性を確認す る。							
第6回	外部講師による講義 3			施設・機関におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際							
第7回	振り返りグループ授業			外部講師ごとの「振り返りレポート」と「疑問点」をもとに発表・協議							
第8回	外部講師による講義 4			施設・機関におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際							
第9回	外部講師による講義 5			施設・機関におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際							
第10回	外部講師による講義 6			施設・機関におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際							
第11回	振り返りグループ授業			外部講師ごとの「振り返りレポート」と「疑問点」をもとに発表・協議							
第12回	多様な施設・機関の体験学習または見学実習 の振り返り1 グループ授業			グループワーク：学生が体験した施設・機関の印象に残った〇〇の学びを 振り返り、スーパービジョンを受ける。							
第13回	多様な施設・機関の体験学習または見学実習 の振り返り2 グループ授業			グループワーク：学生が体験した施設・機関をプレゼン発表し、ディス カッションを通して学びを深める1							
第14回	多様な施設・機関の体験学習または見学実習 の振り返り3 グループ授業			グループワーク：学生が体験した施設・機関をプレゼン発表し、ディス カッションを通して学びを深める2							
第15回	まとめ（全体）			今までの授業を通して、個人の社会福祉士像についてまとめる。							
授業方法(4 デモ、7対1 グループ等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	資料記入	PBL (問題解決型学 習)	予習レポート	リフレクションシ ート	実習、フィールド ワーク			
	教科書や参考文献を熟読し、社会福祉士の業務内容や施設・事業所について、予習レポートや振り返りシート、プレゼンなどで修得する。										
評価 方法 及び 評価 基準	外部講師の講義に対するレポート48点、グループ授業の予習・振り返りのレポート12点、プレゼンテーション20点、ま とめレポート20点で評価する。 ・外部講師の講義・レポートについては、評価基準を印刷・配布し、教員の合意で評価する。 ・講義授業における予習・振り返り等についても、上記基準を準用し、各教員が評価する。										
課題等	予習レポート・振り返りシートは点検後に返却する。返却後に指摘された箇所の訂正を行い、以降の学習に生かすこと。										
事前事後 学修	本授業の予習復習方法は2つある。一つは、授業計画に示した各回の主題や授業内容に沿ってプリント及び教科書や参考 文献を熟読し、予習レポートを作成する。復習方法は、不足している箇所について調べて修得しておく。次に、ゲスト ティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義の予習方法は、実習先施設・機関の特徴や主要な業務内容、ソーシ アルワーカーの役割と業務、及び社会福祉実習に向かう心構えなどについてレポートを作成する。また、復習方法として、 講義内容に沿った復習レポートを翌日正午までに予習レポートとセットで提出する。予習・復習は90分以上。										
教材 教科書 参考書	教科書：日本社会福祉士養成講座編(2021) 『第8巻ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習[社会専門]』中央法規 ISBN9784805882511 参考書：『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN9784623083107 (最新版を用意すること)										
留意点	「社会福祉実習指導 I」「社会福祉実習 I」と関連するため、自主的・積極的に学習に取り組む。										

科目名	社会福祉実習指導 I		科目コード	W34111		単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	集中
			科目ナンバリング	W-PPPF2-14			15時間				
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・宮田将希・齊藤隆之・駒ヶ嶺裕子				授業 形態	講義	クラス分け	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワーク基礎実習の意義を理解し、社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。実習事後指導においては、実習で得られた具体的な体験や援助活動を振り返り、実習の課題と成果を整理する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの意義及び社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。 ・ソーシャルワークの知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得することができる。 ・実習施設や関連する施設、機関等を見学し業務内容や利用者理解を深める。 ・実習で得た具体的な体験や援助活動について振り返り、実習の成果と課題を実習報告書としてまとめ、発表することができる。 										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	オリエンテーション、社会福祉基礎実習指導の演習の目的、授業方法について			冒頭30分間全体授業で、本演習のテーマや到達目標、授業方法、全体スケジュール、担当教員別履修生名簿を発表する。全体説明後に各教室に移り、実習の意義についてグループ討論を行う。						全体	
第2回	実習先となる施設や機関の理解			実習先となる施設や機関について予習し本授業で発表する。出席者はコメントし、実習に出るまでに不足している知識を明確化する。						各グループごとに分かれて指導する	
第3回	価値と倫理、個人情報保護、利用者理解			ソーシャルワーカーの価値と倫理について再確認するとともに、実習施設の利用者について理解を深める							
第4回	見学実習			実習施設や関連する施設、機関等を見学して社会福祉士の業務内容や利用者等について理解を深める。							
第5回	見学実習後の振り返り			事前学修の変更・追記箇所の確認や、見学内容等についてグループスーパービジョンを行い、学びを深める。							
第6回	事前計画指導(1)			計画書の課題項目の意味を理解して、下書きを作成する。							
第7回	事前計画指導(2)			実習施設・機関のサービス内容、ソーシャルワーカーの役割などについての予習結果と、前週までの学習成果を踏まえ、実習計画書の下書きを作る。							
第8回	事前計画指導(3)			実習計画書の下書きを完成させ、発表し、出席者はコメントする。コメントを参考に適宜、計画書の修正を行い、担当教員に提出する。							
第9回	実習日誌の書き方及びスーパービジョンの意義と方法			実習日誌の書き方について学ぶ。また、適宜行われるスーパービジョンの目的及び役割を理解し、活用できるよう準備する。							
第10回	実習施設・機関への事前訪問に向けた指導			実習に関するテーマや課題内容、服装や身だしなみ、注意事項等についてグループで確認する。							
第11回	実習施設・機関への事前訪問後の指導			事前訪問にて実習先の施設・機関のどのような情報が新たに得られたかを振り返り、実習計画書の修正を行う。							
第12回	実習前面接指導			実習向けの不安や悩みがないかを面談して解決する。また、実習終了後の手続きについて手引書を確認する。							
第13回	実習中の巡回指導と帰校指導			実習内容と実習状況の確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価する。実習中の巡回指導は実習時間にカウントし、帰校指導は授業1回分としてカウントする。							
第14回	実習総括指導(1)			実習で学んできたことの確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価し、実習報告書の作成に入る。							
第15回	実習総括指導(2)			実習報告書をクラス内で発表し、適宜修正した後、完成原稿を提出する。							
授業方法(オンライン、フリップ、グループワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	理解度チェック	授業中のノート取り	誘導ディスカッション	各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。		
評価方法及び評価基準	<p>実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。</p> <p>なお、第1回ガイダンスで各種提出書類(個人調書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書)の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。</p>										
課題等	<p>次回授業の課題を提示するため、文献や論文、辞書などを利用して作成し授業に臨むこと。実習計画書・報告会レジュメ・実習総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。</p>										
事前事後学修	<p>事前学習では、指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では、更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についても事前に文献などを調べ補足する。</p>										
教材教科書参考書	<p>最新 社会福祉士養成講座8 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習〔社会専門〕』中央法規 ISBN978-4-8058-8251-1C3036 ミネルヴァ書房編集部編(2024)『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN 9784623095124(毎年4月公刊のため最新刊を購入のこと)</p>										
留意点	<p>実習指導は演習形式であるため、積極的発言(発表・コメント)や共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>										

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		科目コード	W34201		単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF2-15		時間	30時間				
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・高橋和幸・丸山龍太・ 駒ヶ嶺裕子・()				授業形態	講義	クラス分	
授業の概要等	【授業の主旨】 多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得する。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。実習前には実習計画書の指導を学内にて行い、実習中は巡回指導、帰校指導を行う。また、実習後は実習成果を学内で振り返り実習総括の報告会や報告書の作成指導を行う。										
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。										
到達目標	多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得することができる。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養することができる。										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的、実習指導の意義の理解、受講上の諸注意等を配布書類をもとに確認する			前半合同、後半グループ	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールと実習報告会についての確認 ②実習総括書の様式説明、説明後は各教室に移動			前半合同、後半グループ
第2回	事前学習 1	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠、利用者特性、サービスの内容等）			グループディスカッション	第17回	実習振り返り 1	実習体験と実習日誌を踏まえた課題の整理を行う			グループディスカッション
第3回	事前学習 2	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、職員配置、他の職種の業務と連携）			グループディスカッション	第18回	実習振り返り 2	前回の課題整理作業を踏まえ、①グループで振り返り、②実習報告会の報告内容の検討			グループディスカッション
第4回	事前学習 3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（実習先施設と関連のある機関・事業所との多機関連携について）			グループディスカッション	第19回	実習振り返り 3	①個別スーパービジョン、②グループで振り返り、③実習報告会のレジュメ下書き作業			グループディスカッション
第5回	事前学習 4	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）			グループディスカッション	第20回	実習報告準備 1	実習報告会に備え準備を行う、報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う			グループディスカッション
第6回	事前学習 5	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念、プライバシー保護と守秘義務）			グループディスカッション	第21回	実習報告準備 2	実習報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う。発表レジュメの校正と発表内容の吟味			グループディスカッション
第7回	事前学習 6	①実習計画書の仮案の発表と質疑応答、課題の明確化を行う			グループディスカッション	第22回	実習報告準備 3	実習報告会に備え準備を行う、当日の役割分担に話し合う（司会・タイムキーパー・書記）			グループディスカッション
第8回	事前学習 7	①実習時のスーパービジョンについて理解を深める			グループディスカッション	第23回	実習報告（総括）会 1	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う			グループディスカッション
第9回	実習準備 1	①実習先事前訪問の意義、目的等を確認する。②事前訪問日時の予約			グループディスカッション	第24回	実習報告（総括）会 2	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う			グループディスカッション
第10回	実習準備 2	①実習計画書の作成指導 ②実習日誌の記載法の留意点等を確認する			グループディスカッション	第25回	実習報告（総括）会 3	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う			グループディスカッション
第11回	実習準備 3	①実習計画書の作成指導 ②事前訪問時の見学で得た施設・機関の対象者、サービス内容、職員配置、他の職種の専門性、地域連携等の情報整理			グループディスカッション	第26回	実習報告（総括）会 4	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う			グループディスカッション
第12回	実習準備 4	①事前訪問の結果を踏まえ計画書の修正を行う			グループディスカッション	第27回	実習報告（総括）会 5	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う			グループディスカッション
第13回	実習準備 5	①実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成過程を振り返る			グループディスカッション	第28回	実習総括書作成	実習総括書の下書きを発表し合い、助言を得て修正ポイントを把握する			グループディスカッション
第14回	実習準備 6	①最終確定版の実習計画について発表を行い、出席学生からコメントをもらう。			グループディスカッション	第29回	実習総括書最終校正	実習総括書の修正、完成を図る			グループディスカッション
第15回	実習準備 7	①病欠、事故やケガの発生時の対応等、実習上の諸注意。②利用者や地域の状況を理解するためのアセスメントツール、支援計画作成及び評価を経験できるよう様式の確認、記載方法について学ぶ。			グループディスカッション	第30回	振り返り	提出した実習総括書を出席者全員で輪読し、1年間のまとめを行う			グループディスカッション
授業方法(4/F:7/F:1/F:2/F:3/F:4/F:5/F:6/F:7/F:8/F:9/F:10/F:11/F:12)	PBL（問題解決型学習）	発表、ポスター作成	実習、フィールドワーク	資料記入							
評価方法及び評価基準	実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類（個人調書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書）の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。										
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・実習総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。										
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。										
教材教科書参考書	最新 社会福祉士養成講座 8 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]』中央法規 ISBN978-4-8058-8251-1C3036 ミネルヴァ書房編集部編（2025）『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN（毎年4月公刊のため最新刊を購入のこと）										
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように。										

科目名	精神保健福祉実習指導 I		科目コード	W35004		単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-16		時間	15時間				
区分	実践系科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉実習の意義・目的について理解しながら、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。ここでは、精神保健福祉実習の事前学習として精神障害者の様々な問題に取り組む。そして、精神保健福祉の援助・支援に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう事例を通してグループワークにて学ぶ。グループワークを通して、自分の意見を伝え相手の意見を聴き、考察して深める。精神保健福祉実習の準備を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,5関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,5-1,5-2,5-3に関連している。</p>										
到達 目標	<p>本科目は、精神保健福祉実習の事前学習として、精神保健福祉の援助に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら本講義に参加しながら学習する。また配属実習先施設・機関等を体系的に理解しながら実習に臨む基礎的実力を身につける。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	精神保健福祉援助実習と実習指導の意義①		自己紹介、精神保健福祉援助実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義						視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神保健福祉援助実習と実習指導の意義②		実習指導（スーパービジョン）の目的および意義						視聴覚（スライド）使用		
第3回	精神保健医療福祉の現状に関する基本的理解		日本の精神保健福祉の現状のおかれている利用者理解						視聴覚（スライド）使用		
第4回	実習施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的理解		社会資源を調べて報告する 精神障害者が利用する施設等を各自で調べて報告する						事前学習		
第5回	実習に必要な専門的知識と技術に関する理解①		基本的な対人援助を事例を通して学習する ロールプレイ形式で直接技術を学ぶ						グループワーク		
第6回	実習に必要な専門的知識と技術に関する理解②		集団援助技術を事例を通して学習する Social Skills Trainingを学ぶ						グループワーク		
第7回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解		職業倫理と法的責務を事例を通して学習する						グループワーク		
第8回	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解		実習において発生される事態を事例を通して学習する						グループワーク		
第9回	「実習記録ノート」への記録内容及び方法に関する理解		実習ノートの取り方、スーパービジョンの受け方を学習する						個別ワーク		
第10回	現場体験学習及び見学実習の目的および事前学習		機関見学の事前準備を行う						グループワーク		
第11回	現場体験学習及び見学実習		機関見学を行う								
第12回	現場体験学習及び見学実習の事後学習		機関見学後の振り返りを行う								
第13回	実習課題及び実習計画の作成①		実習前に実習計画を作成し共有する						グループワーク		
第14回	実習課題及び実習計画の作成②		実習前に実習計画を作成し共有する						グループワーク		
第15回	実習の評価全体総括会（精神保健福祉実習報告会への参加）		実習した先輩方の精神保健福祉実習報告会に参加								
授業方法（フ ォーム、7対 7、ペア等）	PBL（問題解決型 学習）	実習、フィールド ワーク	グループワーク	ロールプレイング	発表、ホスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>出席が5分の4に満たない者は評価の対象としない。講義の様子とリアクションペーパー（55%）、機関見学レポートとレポート課題と実習報告会レポート（各15%計45%）で評価する。また、レポート課題は指定本を読み、どの程度理解したか評価する。</p>										
課題等	<p>精神保健福祉士の実践知に学ぶソーシャルワークシリーズ「ソーシャルワークプロセスにおける思考過程」田村綾子編著（中央法規出版）2017の概略と1事例をまとめて考察し、レポートとして提出する。</p>										
事前事後 学修	<p>機関調べや機関見学の事前学習を行う。講義終了後、紹介された文献などを読みまとめる。実習計画書について指摘を受けた後、反映させて次週の講義に臨む。</p>										
教材 教科書 参考書	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習【精神専門】』（中央法規出版）2021 ISBN978-4-8058-8259-7</p>										
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>										

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ		科目コード	W35005		単位数	2単位	対象学年	4年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF2-17		時間	30時間				
区分	実践系科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉の援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果を振り返りながら総括し報告書を作成する。また、在学生、教員、実習指導者も招いて公開報告会も実施する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,5関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,5-2,5-3,5-4に関連している。</p>										
到達目標	精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関（精神科病院、障害福祉サービス事業所など）の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己理解を深め、気づきのある実習にすることと精神保健福祉士の役割とは何かを学ぶことである。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	精神保健福祉実習 オリエンテーション	実習計画書作成				第16回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第2回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第17回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第3回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第18回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第4回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第19回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第5回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第20回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第6回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第21回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第7回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第22回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第8回	精神保健福祉実習	実習計画書作成				第23回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第9回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項①				第24回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)			
第10回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項②				第25回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第11回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の確認				第26回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第12回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の確認				第27回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第13回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について				第28回	精神保健福祉実習	実習報告会等準備作業・プレゼン方法の理解			
第14回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について				第29回	精神保健福祉実習	実習報告会			
第15回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について				第30回	精神保健福祉実習	実習報告書の仕上げ			
授業方法(フ レックス、フ レックス等)	PBL（問題解決型 学習）	実習、フィールド ワーク	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>実習に関する取り組み状況（実習計画書、他）と総括報告書（50%）や、実習機関からの実習評価（50%）で総合評価する。精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱと事前学習、事後学習から精神保健福祉士の専門性をどのように理解したか、自己覚知を経たうえで、何のために「かかわる」のか、ソーシャルワーカーとしての支援プロセス（課題をどう見立て計画しモニタリングしていく）を理解したかを評価する。</p>										
課題等	<p>実習計画書を自分の言葉で作成し、実習を通して計画を履行したうえで考察し、精神保健福祉士としての矜持を養う。実習終了後は、スーパービジョンを行い、その後は実習総括書を作成し、報告会を実施する。</p>										
事前事後 学修	<p>毎週、実習計画書を作成し、コメントを反映させてくる。事前学習では、「精神保健福祉実習の手引き」を読む。実習に向けた資料を理解し実習Ⅰ期に臨む。実習Ⅰ期終了後は、振り返りを行い実習Ⅱ期に向けて準備する。実習Ⅱ期終了後は、振り返りを経つつ自己覚知やソーシャルワークについてグループワークを通して検討する。その際の資料を毎回準備する。</p>										
教材 教科書 参考書	<p>本学の「精神保健福祉実習の手引き」と資料を配布する予定である。</p>										
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>										

科目名	社会調査実習A		科目コード	W35010	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-18	時間	30時間				
区分	実践系科目	選択	担当者名	小山内 詩織				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画し、実際に調査を行い、集計、分析を行います（後期の社会調査実習Bと連続しています）。調査テーマはメンバーの話し合いによって決めます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-3、5-4に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の方法を理解する ・社会調査によって明らかにできることを理解する ・仮説を立てられるようになる ・社会調査全体の流れを理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	オリエンテーション		授業の流れを理解するとともに、社会調査がどのようなものなのか実態を理解する							
第2回	社会調査とは何か（1）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第3回	社会調査とは何か（2）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第4回	社会調査とは何か（3）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第5回	調査テーマの検討（1）		グループを作り、各グループのメンバーで話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第6回	調査テーマの検討（2）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第7回	調査テーマの検討（3）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第8回	調査テーマの検討（4）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第9回	先行研究の検討（1）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第10回	先行研究の検討（2）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第11回	先行研究の検討（3）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第12回	先行研究の検討（4）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第13回	研究計画（1）		実際に行う調査の方法、調査対象、時期等を検討する						PBL ディスカッション	
第14回	研究計画（2）		実際に行う調査の方法、調査対象、時期等を検討する						PBL ディスカッション	
第15回	進捗報告		研究テーマと先行研究の紹介を通して、研究計画の進捗状況を発表する						PBL プレゼンテーション	
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第2回から第15回までPBLを行い、第5回から第14回まではディスカッション、第15回はプレゼンテーションを行う。									
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加態度（30点）、進捗報告（40点）、課題への取り組み（30点）を総合的に評価します									
課題等	調査テーマ案、調査仮説案の作成についての課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前事後学修	調査テーマ案、調査仮説案等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	この授業はグループワークでテーマ決めをしたり、研究計画を立てたりするので、実際に出席することで学びが深まるタイプの授業です。できる限り毎回出席するよう努めてください。なお、15回中5回以上欠席した人は調査対象外となりますのでお気を付けください。									

科目名	社会調査実習B		科目コード	W35011	単位数	2単位	対象	4年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-19	時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系列科目	選択	担当者名	小山内 詩織				授業形態	実習	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画し、実際に調査を行い、集計、分析を行います（前期の社会調査実習Aと連続しています）。調査テーマはメンバーの話し合いによって決めます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-3、5-4に関連している									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の方法を理解する ・社会調査によって明らかにできることを理解する ・仮説を立てられるようになる ・社会調査全体の流れを理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション・これまで（前期：社会調査実習A）の振り返り		これまでの振り返りとこれからの授業の進め方について理解する							
第2回	質問票の作成（1）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第3回	質問票の作成（2）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第4回	質問票の作成（3）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第5回	質問票の作成（4）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第6回	調査方法・対象の決定		実際の調査にうつる前の打ち合わせをする						PBL ディスカッション	
第7回	調査の実施（1）		実際に調査を行う						PBL	
第8回	調査の実施（2）		実際に調査を行う						PBL	
第9回	調査の実施（3）		実際に調査を行う						PBL	
第10回	調査結果の集計（1）		調査によって得られたデータを集計・整理する						PBL	
第11回	調査結果の集計（2）		調査によって得られたデータを集計・整理する						PBL	
第12回	調査結果の分析（1）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
第13回	調査結果の分析（2）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
第14回	調査結果の分析（3）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
第15回	成果発表		調査結果とその分析から導き出した考察について発表する						PBL プレゼンテーション	
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第2回から第15回はPBLで、第2回から第6回、そして第12回から第14回までディスカッション、第15回にプレゼンテーション									
評価方法 及び 評価基準	授業への参加態度（40点）、成果発表（60点）を総合的に評価します									
課題等										
事前事後学修	質問項目案、分析結果等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	この授業はグループワークでテーマ決めをしたり、研究計画を立てたりするので、実際に出席することで学びが深まるタイプの授業です。できる限り毎回出席するよう努めてください。なお、15回中5回以上欠席した人は評価対象外となりますのでお気を付けてください。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44101		単位数 時間	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H			60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 各自が年間を通じて取り組みたいテーマを見つけ、発表し、討論を通じて一定の結論に到達できるようにする。担当者の専門は法学（憲法学）であるから、社会福祉の専門的な知見を期待されても応えることは難しいかもしれないが、社会福祉の実践と密接に関わる人権論や、そもそもの学問としての論理性といった部分では、多少なりとも有益な関わりができるかもしれない。履修者の人数次第だが、基本的には、毎回のレジュメ作成と発表を義務づけたい。また、単に、他人の発表の聞き役におさまることなく、積極的に質疑応答を重ねていくことも期待したい。司会等が履修者によって行われることも期待したい。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	テーマに関する表面的な理解で満足せず、そこからどういった問題に派生していくか、どういう問題が解明できるかなどを根気よく追求する力を身につけることを目指す。喩えていえば、ゴールではなくスタートラインとなることを目指す。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ガイダンス	何を研究したいか？				第16回	課題の再検討	テーマの再検討			
第2回	ガイダンス	何を研究したいか？				第17回	課題の再検討	テーマの再検討			
第3回	課題の設定	テーマの設定				第18回	発表と討論	発表と討論			
第4回	課題の設定	テーマの設定				第19回	発表と討論	発表と討論			
第5回	課題の追求	論理の組み立て				第20回	発表と討論	発表と討論			
第6回	課題の追求	論理の組み立て				第21回	発表と討論	発表と討論			
第7回	発表と討論	発表と討論				第22回	発表と討論	発表と討論			
第8回	発表と討論	発表と討論				第23回	発表と討論	発表と討論			
第9回	発表と討論	発表と討論				第24回	発表と討論	発表と討論			
第10回	発表と討論	発表と討論				第25回	発表と討論	発表と討論			
第11回	発表と討論	発表と討論				第26回	発表と討論	発表と討論			
第12回	発表と討論	発表と討論				第27回	発表と討論	発表と討論			
第13回	発表と討論	発表と討論				第28回	発表と討論	発表と討論			
第14回	発表と討論	発表と討論				第29回	発表と討論	発表と討論			
第15回	総括	前期の振り返り				第30回	総括	年間の振り返り			
授業方法(ゼミ形式、グループワーク等)	ディベート										
評価方法及び評価基準	特に試験等を実施しないが、主に各自の発表や討論への取り組みを評価の対象とする。毎回、ディスカッションを行う。										
課題等	特になし										
事前事後学修	事前については、特に発表の準備を綿密に行うこと。事後については、他者の発表で得られた知見をしっかりと理解し、自分のものにする。										
教材教科書参考書	特に指定しない。										
留意点	特定の事柄について強い関心や豊富な知識を持っていることは要求しないが、何事についても問題意識が希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44205		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H		時間	60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	棟方 達也				授業形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 このゼミでは、社会福祉に関する直接的、専門的な内容を主題としていない。専門に扱うのはアウトドアスポーツである。情報収集や文献研究は勿論だが（情報リテラシー、ICT活用）、実技（実践）を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。「グループワーク」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」及び「反転学習」等のアクティブラーニング要素を含む。 【対象となりうる主な種目】スノースポーツ、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の実習全てに参加する。 ・1つの活動を計画から実践を経て報告書にまとめあげ発表（プレゼンテーション）して完結させる。 ・引き続き専門演習Ⅱを受講する予定の者は、卒業研究に向けてアウトドアスポーツに関するテーマの絞り込みをスタートする。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考				
第1回	年間計画	季節に応じた種目選択と実施計画	受講者数を考慮	第16回	夏実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション				
第2回	アウトドアスポーツ実践の基礎	情報収集と情報の活用		第17回	秋実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他					
第3回	アウトドアスポーツ実践の基礎	アウトドア系専門用語（報告に向けた下調べ）		第18回	秋実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他					
第4回	アウトドアスポーツ実践の基礎	装備の活用と管理（報告に向けた下調べ）		第19回	秋実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段 その他					
第5回	アウトドアスポーツ実践の基礎	食材・食品の知識と活用（報告に向けた下調べ）		第20回	秋実習	〔例〕山岳活動、サイクリング等から1種目	フィールドワーク				
第6回	アウトドアスポーツ実践の基礎	現地情報とその分析		第21回							
第7回	アウトドアスポーツ実践の基礎	ロープワーク、安全対策 その他（報告に向けた下調べ）		第22回	秋実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション				
第8回	アウトドアスポーツ実践の基礎	読図&コンパスワーク その他（報告に向けた下調べ）	フィールドワーク	第23回	共通演習4	映像、画像の扱い方（データの収集）					
第9回	アウトドアスポーツ実践の基礎	各種計画法:食料、装備、行動 その他		第24回	冬実習のための基礎知識と情報収集1	装備、安全対策 その他（必要に応じて事前実践学習）					
第10回	アウトドアスポーツ実践の基礎	傷害と救急処置（反復練習）		第25回	冬実習のための基礎知識と情報収集2	用具と技術（必要に応じて事前実践学習）					
第11回	夏実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他（種目選択）		第26回	冬実習の計画と準備	種目、日程、装備、食事、交通手段 等について					
第12回	夏実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他		第27回	冬実習	スノースポーツ					
第13回	夏実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段、個別活動等について		第28回							
第14回	夏実習	〔例〕シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング等から1種目以上	フィールドワーク	第29回	冬実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション				
第15回				第30回	年間総括	全体の振り返り、補足及び専門演習Ⅱへ向けて					
授業方法(フロンティア等)	PBL（問題解決型学習）	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	資料記入	理解度チェック	リフレクションシート			
評価方法及び評価基準	出席状況及び実習実施状況：50点（3回の実習を全てクリアすること。夏休み中、社会福祉実習等で参加できない場合は、他の日程や内容で代替実施する場合もある。） 報告及び発表：50点（求められる内容を正しく理解し、指定された形式でまとめられているかを評価する。） 活動への積極性を重視する。										
課題等	アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。										
事前事後学修	全ての事前学修は、実践（実習）を前提としている。また、実践（実習）後の総括（報告）は、次の実習の土台となる。実技の実践（フィールドワーク）を伴うため、授業時間内で完結できない場合がほとんどであり、土日祝日や平日の空き時間を積極的に活用することになる。										
教材教科書参考書	種目により、必要に応じてその都度、指定または提供する。										
留意点	原則、人間科学コース所属の学生を前提としている。内容が特殊であるので、登録前に必ず面談し適性や内容の確認をすること。（Teamsのチャットによるアポイント可）土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く、交通費や装備費等の実費負担も相応に発生する。アウトドアと運動が好きであれば、性別、経験、運動能力は問わない。但し、喫煙者お断り。※1～2年次において、スポーツ科学実技（アウトドアスポーツ：陸、シーカヤック、スクーバダイビング及びスノースポーツ）から1つ以上を履修していることが望ましい。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44201		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H		時間	60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ソーシャルワークに関する文献を講読する。毎回、担当者を決め担当箇所のレジメを作成する。作成したレジメをもとに報告を行い、それについて全体で討論する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>										
到達目標	<p>(1) ソーシャルワークに関する文献を読むことができる。</p> <p>(2) 社会福祉士の活動について説明できる。</p> <p>(3) 社会課題の背景と構造についてソーシャルワークの視点から説明できる。</p> <p>(4) 社会課題への対応についてソーシャルワークの視点から説明できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え				第16回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第2回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第17回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第3回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第18回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第4回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第19回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第5回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第20回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第6回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第21回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第7回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第22回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第8回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第23回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第9回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第24回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第10回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第25回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第11回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第26回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第12回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第27回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第13回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第28回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第14回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第29回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第15回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第30回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
授業方法（フロンティア・75分・ブランチ等）	グループワーク	発表、ポスター作成									
評価方法及び評価基準	<p>レジメ作成50%、報告50%</p> <p>レジメの作成は、ソーシャルワークおよび独立型社会福祉士に関する先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。</p> <p>報告は、発言頻度やその内容を評価する。</p>										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返す。										
事前事後学修	<p>演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。</p> <p>90分の授業外の学修が必要である。事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。授業で示された課題・問題について整理し、解決に努めること。</p>										
教材教科書参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。</p> <p>能動的学習姿勢での参加を求める。</p> <p>自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。</p> <p>ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある（参加が困難な場合は、参加にかかわるレポート提出を求める）。</p>										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44102		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H							
区分	実践系列科目	必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 1・2年で4小論文の基礎的文章作成能力は学生自らが身につけたと思います。それゆえ、これからは、卒業論文の準備を始めて行きます。まずは、学生が自らこれから2年間で少しずつ発表していくテーマを決めてもらいます。まずは、テーマを決める前に学生同士で情報交換会を行います。テーマは自分で決めるものですが、互いの情報交換で、予想すらしらないヒントが生まれるかもしれません。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	テーマをしっかりと決めて、文章を書き、考えることを習慣にしてください。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	卒業論文とは何か	卒業論文の理解				第16回	夏休みをどのように過ごしたか	質問や意見交換			
第2回	学生それぞれがどのような卒論を書きたいかのべる	それぞれの情報に関する学生同士の意見交換				第17回	西東の卒論の骨格づくりについて	質問や意見交換			
第3回	同上	同上とテーマの決定				第18回	学生の発表	質問や意見交換			
第4回	学生の発表	質問や意見交換				第19回	学生の発表	質問や意見交換			
第5回	学生の発表	質問や意見交換				第20回	学生の発表	質問や意見交換			
第6回	学生の発表	質問や意見交換				第21回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換			
第7回	発表3回分の西東による助言と指導	西東の助言と指導に対する質問				第22回	学生の発表	質問や意見交換			
第8回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見				第23回	学生の発表	質問や意見交換			
第9回	学生の発表	質問や意見交換				第24回	学生の発表	質問や意見交換			
第10回	学生の発表	質問や意見交換				第25回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換			
第11回	学生の発表	質問や意見交換				第26回	学生の発表	質問や意見交換			
第12回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換				第27回	学生の発表	質問や意見交換			
第13回	学生の発表	質問や意見交換				第28回	学生の発表	質問や意見交換			
第14回	学生の発表	質問や意見交換				第29回	これまでまとめた文章の発表	質問や意見交換			
第15回	学生の発表	質問や意見交換				第30回	学生の発表に対する西東の講評	講評への質問や意見交換			
授業方法（ゼミナール、グループワーク等）	前期の後半及び後期の後半に、自身のテーマ設定について議論する。										
評価方法及び評価基準	最後にまとめた文章を読んで評価（100%）										
課題等	文章の作り方など、気になることは何でも質問して下さい。										
事前事後学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。										
教材教科書参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44303		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H		時間	60時間				
区分	実践系列科目	必修	担当者名	小山内 詩織				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>【授業の主旨】</p> <p>この授業では、文献の読解、社会調査の実施、小論文の執筆という作業を通して、社会をみる眼、および論理的思考力を養います。前期は、自身が関心を持っている社会課題に対するトピックを選定し、それに関連するフィールドワークを行います。後期は、自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成します。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している</p>										
	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読む力をつける 自分の関心を掘り下げ、問いを設定できるようになる 論理的な文章を書けるようになる 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について				第16回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第2回	ブレインストーミング	どのようなテーマを取り扱うかについて自由にアイデアを出し合う			ディスカッション	第17回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第3回	文献の検索方法	研究論文や著書、一次資料等の探し方について学び、内容を紹介し合う			ディスカッション	第18回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第4回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第19回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第5回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第20回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第6回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第21回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第7回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第22回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第8回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第23回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第9回	文献の紹介、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第24回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第10回	研究計画	研究デザインの概観を考え、議論する			ディスカッション	第25回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第11回	研究計画	研究デザインの概観を考え、議論する			ディスカッション	第26回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第12回	研究計画	研究デザインの概観を考え、議論する			ディスカッション	第27回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第13回	研究目的と調査方法の設定	自らが設定した研究目的を達成するための社会調査を検討する			ディスカッション	第28回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第14回	社会調査実践	実際に社会調査を実施する			フィールドワーク	第29回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第15回	社会調査の振り返り	社会調査の振り返りを行い、明らかになったことについての意味を議論する			ディスカッション	第30回	最終成果発表	小論文の内容を共有するとともに、フィールドワークをはじめとする社会調査実践で学んだことについて議論する。			プレゼンテーション・ディスカッション
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第2回から第13回と第15回、第24回から第30回はディスカッション、第14回はフィールドワーク、第16回から第23回、第30回はプレゼンテーションを行う										
評価方法 及び 評価基準	授業への参加態度（40点）、小論文（60点）を総合的に評価します										
課題等	課題は適宜提示します。内容確認は授業中に行うと思っています。										
事前事後 学修	自身の研究関連の文献を読んで、理解を深めてください。また、小論文の執筆に必要な作業を行ってください。 準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。										
教材 教科書 参考書	適宜提示します。										
留意点											

科目名	専門演習 I		科目コード	W44305		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H								
区分	実践系列科目	必修	担当者名	丸山 龍太					授業 形態	演習	単独
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>〔キーワード： 貧困、スティグマ、生活保護〕 専門演習 I では、履修者自ら卒業論文執筆に向けてのテーマの設定を行い、研究活動を行う中で、考察を深めることを目的とする。私は、キーワードに記した分野を研究領域としている為、これらに関心のある方を特に歓迎したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している</p>										
到達 目標	自らが興味関心のある社会福祉学に関する事柄から研究テーマを設定し、その発表と討論、その後、再テーマ設定と再発表、再討論を繰り返す。この繰り返しから、お互いに社会福祉学の現状と課題に関し理解と考察を深めることができる。これらを通じて、4年次の卒業論文等の作成に向けた準備を完了することを目標とする。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	専門演習を始めるにあたってのオリエンテーションを行う				第16回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う			
第2回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する				第17回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う			
第3回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する				第18回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第4回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する				第19回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第5回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する				第20回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第6回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第21回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第7回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第22回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第8回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第23回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第9回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第24回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第10回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第25回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第11回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第26回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第12回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第27回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			
第13回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第28回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する			
第14回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する				第29回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する			
第15回	前期の振り返り	これまでの研究成果を踏まえ、後期に向けた課題を整理する				第30回	専門演習 II に向けた準備	次年度専門演習 II に向け、準備を行う			
授業方法(レディメント、7対1グループ・ラーニング等)	ディベート	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	PBL(問題解決型学習)							
評価方法及び評価基準	試験は実施しない。各自の発表、討論の取り組み状況等、授業への参加度（100%）で評価する。自ら課題を設定し研究を進めることとなるので、主体的な行動が求められる。主体的な行動が難しい場合、再履修となる可能性が高まる。										
課題等	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。提出はTEAMSにより行う。										
事前事後学修	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。用意した資料は、予めTEAMS上にアップロードする。										
教材教科書参考書	各自、必要に応じて適宜指示する。										
留意点	私の専門演習 I 及び専門演習 II は、2年間をかけて卒業論文等を作成することを前提に演習を行います。その為、私の専門演習 I 及び II を希望する人は、履修に関する相談を履修登録日までに十分に私と行うようお願いいたします。履修相談なく履修登録した場合、履修を認めませんので注意して下さい。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44204		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年		
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H		時間	60時間						
区分	実践系列科目	必修	担当者名	川村 泰弘				授業形態	演習	単独			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編を読み、大綱的な基準である学習指導要領等の記述の意味や解釈などの理解を深め、創意工夫を生かした教育課程の編成について考える。併せて、主に知的障害のある生徒の学習指導について、学習指導案の作成と模擬授業を通して考える。 ・後期は、学生自身が設定した特別支援教育に関するテーマを追求し、その成果をレポートにまとめる。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している</p>												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校学習指導要領解説を読み、学習指導要領に記載された記述の意味や解釈などを理解する。 2 知的障害のある生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成と模擬授業を実施し、特別支援学校における学習指導について理解を深める。 3 特別支援教育に関する研究主題の設定から研究報告までの一連の活動を進めるための基本事項を修得する。 												
授 業 計 画													
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考		
第1回	オリエンテーション					第16回	学生個々の研究テーマと研究計画の設定	夏季休業中に各自のテーマと研究計画を構想し、意見交換を通して個人テーマと研究計画を確定する。					
第2回						第17回							
第3回						第18回							
第4回						第19回							
第5回						第20回	研究テーマの追求	研究計画に基づき、学生一人一人の研究テーマを追求する。					
第6回						第21回		研究テーマ追求の進捗状況の報告と意見交換を行う。					
第7回	(1) 特別支援学校学習指導要領の理解	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編の通読とメンバー同士の話し合い活動を通して、特別支援学校学習指導要領の理解を深める。				第22回							
第8回								第23回					
第9回	(2) 学習指導案の作成と模擬授業	学習指導案作成の意義、役割等を確認したうえで、知的障害児を対象とした学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。学習指導案の事前検討。模擬授業後の検討会を行い、知的障害教育の授業のあり方を考える。				第24回		研究成果をまとめ、レポートを作成する。					
第10回								第25回		レポート概要の報告と協議を行う。			
第11回								第26回	レポートの作成	レポートを修正する。			
第12回								第27回		レポート概要の報告と協議を行う。			
第13回								第28回		レポートの最終稿を作成する。			
第14回								第29回	発表会準備	プレゼンテーション資料の作成と発表リハーサルを行う。			
第15回								第30回	発表会	研究成果の発表と質疑応答を行う。			
授業方法(フジマド、7行4ブ、ラニング等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り							
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加状況30%、学習指導案の作成と模擬授業20%、レポートの作成と発表50%で評価する。 ・演習への参加状況は主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力、情報活用能力などを中心に評価する。 ・レポートは、課題設定の着眼点、全体構成と文章力、論理性について評価する。 												
課題等	・教科書のレジュメ、模擬授業の学習指導案、研究レポートを作成する。												
事前事後学修	<p>予習：課題図書指定箇所を読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。また、発表者は事前にレジュメを作成し、当日の授業のはじめに配布すること。</p> <p>復習：授業で出された課題や疑問点について、自身の考えをまとめること。</p>												
教材教科書参考書	<p>教科書：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部） ISBN：978-4304042294</p> <p>・関連する内容や研究方法、レポートの執筆方法等については、随時資料を配布する。</p>												
留意点	・授業時間外におけるメンバー間の協議や情報共有、教員への相談によって、積極的に課題追求を行うようにしてほしい。												

科目名	専門演習 I		科目コード	W44104		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H							
区分	実践系科目	必修	担当者名	宮田 将暉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕										
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭福祉に関連する、文献や資料を読み、内容についての議論を行う。 実際の実践現場において、どのような支援が必要とされるか、事例を交え学習していく。 その他実践現場において必要な専門的な知識や技術を学習していく。 										
到達 目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕										
	ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭福祉に関する理解を深める。 実践現場に必要な知識や技術を身につける。 										
	授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について				第16回	オリエンテーション	授業の進め方について			
第2回	文献検討 事例検討 グループワーク	<p>文献や資料について、それぞれが意見を出し合って議論を行う。実践現場を想定した事例をもとに、それぞれがその立場になった時にワーカーとしてどのような立ち振る舞いをしていくかを考え、ワーカーとして必要な知識や技術を身につける。</p> <p>授業の進捗に応じて、実際の現場を見学する機会を設ける。</p>				第17回	文献検討 事例検討 グループワーク	<p>文献や資料について、それぞれが意見を出し合って議論を行う。実践現場を想定した事例をもとに、それぞれがその立場になった時にワーカーとしてどのような立ち振る舞いをしていくかを考え、ワーカーとして必要な知識や技術を身につける。</p> <p>授業の進捗に応じて、実際の現場を見学する機会を設ける。</p>			
第3回	文献検討 事例検討 グループワーク				第18回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第4回	文献検討 事例検討 グループワーク				第19回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第5回	文献検討 事例検討 グループワーク				第20回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第6回	文献検討 事例検討 グループワーク				第21回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第7回	文献検討 事例検討 グループワーク				第22回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第8回	文献検討 事例検討 グループワーク				第23回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第9回	文献検討 事例検討 グループワーク				第24回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第10回	文献検討 事例検討 グループワーク				第25回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第11回	文献検討 事例検討 グループワーク				第26回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第12回	文献検討 事例検討 グループワーク				第27回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第13回	文献検討 事例検討 グループワーク				第28回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第14回	文献検討 事例検討 グループワーク				第29回	文献検討 事例検討 グループワーク					
第15回	まとめ・成果発表				授業で取り扱った議題や課題を元に、自身でテーマを設定し、それに関する発表を行う。						
授業方法(小 グループ、7対1 グループ等)	PBL (問題解決型 学習)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	発表、ポスター作成							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（出席・発言・発表）に応じて総合的に評価します。										
課題等	適宜指示します。										
事前事後 学修	授業テーマに関連する文献やニュースを読んでおく。										
教材 教科書 参考書	授業ごとに指示します。										
留意点											

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44702		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S			90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようにすること。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い				第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか				第17回	引用の示し方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法				第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？				第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて				第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない				第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう				第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？				第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に				第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう			インタビュー	第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度				第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			報告
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて				第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらおう			報告
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法			文献 検索	第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			報告
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法			文献 検索	第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法				第30回	まとめ	一年間を振り返って			
授業方法(ゼミ 形式、75分 ブロック等)	インタビュー・文献検索・報告										
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。										
課題等	その都度、指示をする。										
事前事後 学修	その都度、指示をする。										
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一朗著(2013)『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-06572-1 鈴木淳子(2002)『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-693-x										
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。 勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44703		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	棟方 達也				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】 卒業研究はスポーツに関連するテーマを対象とする。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間以外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「反転学習」の他、テーマによっては「グループワーク」のアクティブラーニング要素を含む。										
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	卒業研究の完成										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認				第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告			プレゼンテーション
第2回	年間計画	卒業研究の他、専門演習Ⅰの実習との関わり方を含む（オブザーバー）				第17回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第3回	卒業研究指導	テーマの確認（テーマの絞り込み）				第18回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画（研究構想の提示）				第19回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第20回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第21回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第22回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）※状況によっては中間発表会			プレゼンテーション
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第23回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第24回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第25回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第26回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正 等			
第13回	卒業研究指導	中間発表準備（レジュメ準備）				第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について			
第14回	中間発表会	ppt. その他の形式による発表（レジュメ準備）			プレゼンテーション	第29回	最終発表準備	発表準備（レジュメ準備）と最終確認			
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認				第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価			プレゼンテーション
授業方法（PBL（問題解決型学習）、実習、フィールドワーク、グループワーク、発表、ポスター作成、リフレクションシート等）											
評価方法及び評価基準	報告と中間発表：20点 卒業研究成果：80点 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして専門演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。										
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択する。										
事前事後学修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間（宿泊、遠征を伴う場合もあり=フィールドワーク）を要する場合もある。										
教材教科書参考書	研究テーマ次第										
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44704		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してき知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジュメの作成および報告を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
	到達 目標	1) 研究テーマを設定することができる。 2) 先行研究のレビューを行うことができる。 3) 研究の背景および目的を記載することができる。 4) 研究方法を記載できる。 5) 考察を記載できる。									
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準				第16回	考察の検討 (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第2回	研究テーマの設定 (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第17回	考察の検討 (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第3回	研究テーマの設定 (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第18回	考察の検討 (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第4回	研究テーマの設定 (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第19回	考察の検討 (4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第5回	先行研究のレビュー (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第20回	報告・議論 (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第6回	先行研究のレビュー (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第21回	報告・議論 (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第7回	先行研究のレビュー (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第22回	報告・議論 (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第8回	先行研究のレビュー (4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第23回	報告・議論 (4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第9回	研究の背景・目的の 検討 (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第24回	報告・議論 (5)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第10回	研究の背景・目的の 検討 (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第25回	報告・議論 (6)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第11回	研究の背景・目的の 検討 (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第26回	報告・議論 (7)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第12回	研究方法の検討 (1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第27回	報告・議論 (8)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第13回	研究方法の検討 (2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第28回	報告・議論 (9)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第14回	研究方法の検討 (3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第29回	報告・議論 (10)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第15回	研究方法の検討 (4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括			ディス カッショ ン
授業方法 (ゼミ、グループワーク等)	グループワーク	発表、ポスター作成									
評価 方法 及び 評価 基準	1) 卒業論文・レポート70%、レジュメ作成および報告30% 2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返す。										
事前事後 学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 90分の授業外の学修が必要である。事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。授業で示された課題・問題について整理し、解決に努めること。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。 能動的学習姿勢での参加を求める。 自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。 ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある (参加が困難な場合は、参加にかかわるレポート提出を求める)。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44705		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉の領域に関するテーマで専門演習Ⅰで調べた内容について、更に深く掘り下げて調査を行う。たとえば、海外ではどのように対策が取り組まれているか、国内での先進事例はどうなっているか探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられる。卒業論文として一生の思い出になるものを完成させることをねらいとする。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	自分の力で、社会福祉の領域に関する研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させること。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)		備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)		備考		
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。自己紹介。(次回までに研究テーマを準備のこと)		グループワーク	第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次回の発表に備える)		グループワーク		
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう。(次回までに研究計画下書きを準備)		プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度		プレゼンテーション・ディスカッション		
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)		プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度		プレゼンテーション・ディスカッション		
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。Wi-Fiに接続しCiniiでもう一度確かめる。(先行研究探しを継続のこと)		プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論		プレゼンテーション・ディスカッション		
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う		プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようにレジュメを準備)		グループワーク		
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合っ図書館にて文献収集を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合っ図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う。		Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告		プレゼンテーション・ディスカッション		
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)。不足部分はWebに接続しながら追跡調査する。		Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)		グループワーク		
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。		プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換		プレゼンテーション・ディスカッション		
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。		プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論		プレゼンテーション・ディスカッション		
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。		プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)		グループワーク		
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。		プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで予行練習。修正の指摘をもらう		プレゼンテーション・ディスカッション		
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)		プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)		プレゼンテーション・ディスカッション		
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)		プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)		プレゼンテーション・ディスカッション		
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を作成	最終的な研究計画書の提出、発表。		プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正(卒論を次回提出できるように用意のこと)		グループワーク		
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。		グループワーク	第30回	一年間の振り返り(成果の分かち合い)	一年間の振り返り(成果の分かち合い)、卒論提出。慰労会。		グループワーク		
授業方法(フ ォーム、75分 アクティビティ等)	グループワーク	ペアワーク	ディベート	発表、ポスター作成	PBL(問題解決型学習)						
	各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。										
評価 方法 及び 評価 基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。										
課題等	卒業研究の成果物(論文等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。										
事前事後 学修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	各自、社会福祉の専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介する。										
留意点	論文の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。「研究課題を自ら設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる」という意欲があふれる方にぜひ履修して頂きたい。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)	科目コード	W44706		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S			90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 卒業論文を仕上げていく演習になります。卒業論文を提出時期は基本的には1月末とします。社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験を受験する学生は、11月末に提出して下さい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している</p>									
	到達 目標	卒業論文を仕上げる能力を身につけます。								
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	卒業論文を仕上げる心構えと諸注意	質問		第16回	夏休みをどのように過ごしたかを聞く	質問や意見交換				
第2回	3年次までに仕上げた文章の発表	質問や意見交換		第17回	学生の発表	質問や意見交換				
第3回	同上	同上		第18回	同上	同上				
第4回	同上	同上		第19回	同上	同上				
第5回	現時点での学生の発表内容への講評	講評に対する質問や意見		第20回	卒業論文の仕上げに向けて	質問				
第6回	卒業論文の新規追加文章の発表	質問や意見交換		第21回	学生の発表	質問や意見交換				
第7回	同上	同上		第22回	同上	同上				
第8回	同上	同上		第23回	同上	同上				
第9回	卒業論文の新規追加文章の講評	質問や意見交換		第24回	学生によるこの2年間の反省と将来の希望	質問や意見交換				
第10回	学生の発表	質問や意見交換		第25回	卒論未提出の学生の発表	質問や意見交換				
第11回	同上	同上		第26回	同上	質問や意見交換				
第12回	同上	同上		第27回	西東の修士論文作業の思い出	学部学生時代は法律学科で卒論がなかった				
第13回	先輩の卒業論文を読む	質問や意見交換		第28回	文章を書く能力について解説	これまでの卒業生と自らの経験から改めて解説				
第14回	学生の発表	質問や意見交換		第29回	自らの好きなことを見つける人生	質問				
第15回	学生の発表	質問や意見交換		第30回	これからの時代を生き抜く卒業生に	質問				
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	前期の前半に、自身の卒論テーマについて、設定の経緯を含めて議論する。									
評価方法及び評価基準	卒業論文の提出 (100%)									
課題等	粘り強く文章を作って下さい。									
事前事後学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。									
教材教科書参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。									
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。									

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44707		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	小山内 詩織				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	【授業の主旨】 本演習では、みなさんに大学4年間の間に学んできたことをもとに卒業論文を執筆していただきます。各自が関心のあるテーマについて考え、読み合わせを通して他学生や担当教員の意見を取り入れたりなどして内容をブラッシュアップします。										
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で問いを立てられる。 ・問いに対応した適切な方法を考えられる。 ・データの解釈や理論的検討を元に、論理的な文章を表現できる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について				第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第23回	中間報告	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			プレゼン テーショ ン
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			プレゼン テーショ ン
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第5回から第15回、第23回と第30回はプレゼンテーション、第16回から第22回、第24回から第29回はディスカッションを行う。										
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加態度（40点）、卒業論文（60点）を総合的に評価します										
課題等	課題は適宜提示します。内容確認は授業中に行うと思っています。										
事前事後 学修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。										
教材 教科書 参考書	適宜、指示します										
留意点											

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44708		単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年			
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S										
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独				
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>卒業研究を実施するために必要なプロセスを学ぶ。 実践現場において必要な知識や技術について学ぶ。 それぞれの研究テーマに対して、学生同士が共に考え、議論を重ねていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>													
到達 目標	卒業研究を完成させる。 実践現場での知識や技術を習得する。													
授 業 計 画														
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。				第16回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。						
第2回	テーマ設定①	自身が研究したいテーマについて考える。				第17回	卒業研究指導	卒業研究の進捗確認。 それぞれの進捗状況に応じて個別での指導を行う。 随時グループでのディスカッションを行いそれぞれのテーマを深めていく。						
第3回	テーマ設定②	自身が研究したいテーマについて考える。				第18回	卒業研究指導							
第4回	研究計画	それぞれの研究についての計画を策定する。				第19回	卒業研究指導							
第5回	文献の調べ方	論文に必要な文献の調べ方について学ぶ。				第20回	卒業研究指導							
第6回	グループディスカッション①	それぞれのテーマに関してのディスカッションを行う。 リサーチクエスト・仮説を立てその内容を議論していく。				第21回	卒業研究指導							
第7回	グループディスカッション②					第22回	卒業研究指導							
第8回	グループディスカッション③					第23回	卒業研究指導							
第9回	グループディスカッション④					第24回	卒業研究指導							
第10回	グループディスカッション⑤					第25回	卒業研究指導							
第11回	卒業研究指導	卒業研究の進捗確認。				第26回	卒業研究指導							
第12回	卒業研究指導					第27回	卒業研究指導							
第13回	卒業研究指導					第28回	卒業研究指導							
第14回	卒業研究指導					第29回	卒業研究指導							
第15回	まとめ	これまでのまとめ・進捗確認。				第30回	卒業研究成果報告会				各自が行った卒業研究の内容を報告・発表する。			
授業方法(フ ィールド・7対 グループ等)	PBL (問題解決型 学習)	グループワーク	発表、ポスター作成											
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度と卒業研究の内容で総合的に評価します。													
課題等	それぞれの卒業研究の進捗状況に応じて指示します。													
事前事後 学修	文献の熟読や研究に必要な調査は各自で進めてもらいます。													
教材 教科書 参考書	研究テーマに応じて。													
留意点	卒業研究は学生自身がテーマを設定して取り組んでいくため、受け身ではなく積極的な姿勢で受講してください。													

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44710		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S			90時間				
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようにすること。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い				第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか				第17回	引用のしし方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法				第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？				第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて				第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない				第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう				第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？				第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に				第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう			インタビュー	第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度				第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			報告
第12回	研究の倫理②	「コビエ」を越えて				第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらおう			報告
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法			文献 検索	第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			報告
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法			文献 検索	第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法				第30回	まとめ	一年間を振り返って			
授業方法(付 き添削・75分 ア・ラウンド等)	インタビュー・文献検索・報告										
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。										
課題等	その都度、指示をする。										
事前事後 学修	その都度、指示をする。										
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一郎著 (2013) 『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』 ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4-623-06572-1 鈴木淳子 (2002 『調査的面接の技法』 ナカニシヤ出版 ISBN: 4-88848-693-x										
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。 勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44711	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間					
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	棟方 達也				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】 卒業研究はスポーツに関連するテーマを対象とする。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間以外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「反転学習」の他、テーマによっては「グループワーク」のアクティブラーニング要素を含む。										
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	卒業研究の完成										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認				第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告			プレゼンテーション
第2回	年間計画	卒業研究の他、専門演習Ⅰの実習との関わり方を含む（オブザーバー）				第17回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第3回	卒業研究指導	テーマの確認（テーマの絞り込み）				第18回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画（研究構想の提示）				第19回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第20回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第21回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第22回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）※状況によっては中間発表会			プレゼンテーション
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第23回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第24回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第25回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第26回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正 等			
第13回	卒業研究指導	中間発表準備（レジュメ準備）				第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について			
第14回	中間発表会	ppt. その他の形式による発表（レジュメ準備）			プレゼンテーション	第29回	最終発表準備	発表準備（レジュメ準備）と最終確認			
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認				第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価			プレゼンテーション
授業方法（PBL（問題解決型学習）、実習、フィールドワーク、グループワーク、発表、ポスター作成、リフレクションシート等）											
評価方法及び評価基準	報告と中間発表：20点 卒業研究成果：80点 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして専門演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。										
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択する。										
事前事後学修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間（宿泊、遠征を伴う場合もあり=フィールドワーク）を要する場合もある。										
教材教科書参考書	研究テーマ次第										
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44712		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してきた知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジメの作成および報告を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>										
到達 目標	<p>1) 研究テーマを設定することができる。</p> <p>2) 先行研究のレビューを行うことができる。</p> <p>3) 研究の背景および目的を記載することができる。</p> <p>4) 研究方法を記載できる。</p> <p>5) 考察を記載できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準				第16回	考察の検討 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第2回	研究テーマの設定 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第17回	考察の検討 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第3回	研究テーマの設定 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第18回	考察の検討 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第4回	研究テーマの設定 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第19回	考察の検討 (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第5回	先行研究のレビュー (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第20回	報告・議論 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第6回	先行研究のレビュー (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第21回	報告・議論 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第7回	先行研究のレビュー (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第22回	報告・議論 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第8回	先行研究のレビュー (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第23回	報告・議論 (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第9回	研究の背景・目的の 検討 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第24回	報告・議論 (5)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第10回	研究の背景・目的の 検討 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第25回	報告・議論 (6)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第11回	研究の背景・目的の 検討 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第26回	報告・議論 (7)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第12回	研究方法の検討 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第27回	報告・議論 (8)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第13回	研究方法の検討 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第28回	報告・議論 (9)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第14回	研究方法の検討 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第29回	報告・議論 (10)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第15回	研究方法の検討 (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括			ディス カッショ ン
授業方法(小 グループワーク等)	グループワーク	発表、ポスター作成									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 卒業論文・レポート70%、レジメ作成および報告30%</p> <p>2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。</p> <p>3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。</p>										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返す。										
事前事後 学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 90分の授業外の学修が必要である。事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。授業で示された課題・問題について整理し、解決に努めること。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。 能動的学習姿勢での参加を求める。 自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。 ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある (参加が困難な場合は、参加にかかわるレポート提出を求める)。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44713		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の領域に限らず広く社会現象のメカニズムの解明や諸問題の原因の解明とその解決策を考えたいという学生向けに専門演習Ⅱ・人間科学(卒業研究含む)が設定されているものと考える。社会福祉の領域にとらわれないテーマで専門演習Ⅰで調べた内容について、更に深く掘り下げて調査を行う。その結果を用いて、卒業論文として一生の思い出になるものを完成させることをねらいとする。なお、テーマによっては制作物(各種作品・アーカイブ化等)や展示会等の実践報告という形で研究成果としてあらわす場合も想定されるので、それにも可能な限り対応したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している</p>										
到達 目標	自分の力で研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる。または研究成果物をつくることができる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。自己紹介。(次回までに研究テーマを準備のこと)			グループワーク	第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次回の発表に備える)			グループワーク
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう。(次回までに研究計画下書きを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。Wi-Fiに接続しCiniiでもう一度確かめる。(先行研究探しを継続のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う			プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようにレジュメを準備)			グループワーク
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告			プレゼンテーション・ディスカッション
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)。不足部分はWebに接続しながら追跡調査する。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)			グループワーク
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換			プレゼンテーション・ディスカッション
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)			グループワーク
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで先行練習。修正の指摘をもらう			プレゼンテーション・ディスカッション
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)			プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)			プレゼンテーション・ディスカッション
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)、研究成果物(作品等)提出者は披露する。			プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を完成	最終的な研究計画書の提出、発表。質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正(卒論を次回提出できるように用意のこと)			グループワーク
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。			グループワーク	第30回	一年間の振り返り(成果の分ち合い)	一年間の振り返り(成果の分ち合い)、卒論提出。慰労会。			グループワーク
授業方法(付 属資料、7行 ア・ブ・C等)	グループワーク	ペアワーク	ディベート	発表、ポスター作成	PBL(問題解決型学習)	各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。					
評価 方法 及び 評価 基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。										
課題等	卒業研究の成果物(論文等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。										
事前事後 学修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	各自、それぞれの専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介する。										
留意点	論文の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。また、研究成果物の制作のため工房、インターンシップ先企業、空き店舗活用事業等への参加、災害対応についてデジタル化し後世に残すべき記録・資料作り等のため学外での活動が多くなる学生もいるものと想定される。それらのことも十分に頭に入れて研究活動に取り組んで欲しい。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44714		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 卒業論文を仕上げていく演習になります。卒業論文を提出時期は基本的には1月末とします。社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験を受験する学生は、11月末に提出して下さい。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	卒業論文を仕上げる能力を身につけます。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備 考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備 考
第1回	卒業論文を仕上げる 心構えと諸注意	質問				第16回	夏休みをどのように 過ごしたかを聞く	質問や意見交換			
第2回	3年次までに仕上げ た文章の発表	質問や意見交換				第17回	学生の発表	質問や意見交換			
第3回	同上	同上				第18回	同上	同上			
第4回	同上	同上				第19回	同上	同上			
第5回	現時点での学生の発 表内容への講評	講評に対する質問や意見				第20回	卒業論文の仕上げに 向けて	質問			
第6回	卒業論文の新規追加 文章の発表	質問や意見交換				第21回	学生の発表	質問や意見交換			
第7回	同上	同上				第22回	同上	同上			
第8回	同上	同上				第23回	同上	同上			
第9回	卒業論文の新規追加 文章の講評	質問や意見交換				第24回	学生によるこの2年間 の反省と将来の希望	質問や意見交換			
第10回	学生の発表	質問や意見交換				第25回	卒論未提出の学生の 発表	質問や意見交換			
第11回	同上	同上				第26回	同上	質問や意見交換			
第12回	同上	同上				第27回	西東の修士論文作業 の思い出	学部学生時代は法律学科で卒論が なかった			
第13回	先輩の卒業論文を読 む	質問や意見交換				第28回	文章を書く能力につ いて解説	これまでの卒業生と自らの経験か ら改めて解説			
第14回	学生の発表	質問や意見交換				第29回	自らの好きなことを 見つける人生	質問			
第15回	学生の発表	質問や意見交換				第30回	これからの時代を生 き抜く卒業生に	質問			
授業方法(レ ディマド、7対1 グループ等)	前期の前半に、自身の卒論テーマについて、設定の経緯を含めて議論する。										
評価 方法 及び 評価 基準	卒業論文の提出 (100%)										
課題等	粘り強く文章を作って下さい。										
事前事後 学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。 学生の要望がなければなりません。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44715		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	小山内 詩織				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本演習では、みなさんに大学4年間の間に学んできたことをもとに卒業論文を執筆していただきます。各自が関心のあるテーマについて考え、読み合わせを通して他学生や担当教員の意見を取り入れたりなどして内容をブラッシュアップします。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で問いを立てられる。 ・問いに対応した適切な方法を考えられる。 ・データの解釈や理論的検討を元に、論理的な文章を表現できる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について				第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第23回	中間報告	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			プレゼン テーショ ン
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディス カッショ ン
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			プレゼン テーショ ン
授業方法 (オンデマンド・アクティブラーニング等)	第5回から第15回、第23回と第30回はプレゼンテーション、第16回から第22回、第24回から第29回はディスカッションを行う。										
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加態度（40点）、卒業論文（60点）を総合的に評価します										
課題等	課題は適宜提示します。内容確認は授業中に行うとさせていただきます。										
事前事後 学修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。										
教材 教科書 参考書	適宜、指示します										
留意点											

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44716		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年		
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S			90時間						
区分	実践系科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独			
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>卒業研究を実施するために必要なプロセスを学ぶ。 実践現場において必要な知識や技術について学ぶ。 それぞれの研究テーマに対して、学生同士が共に考え、議論を重ねていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している</p>												
到達 目標	卒業研究を完成させる。 実践現場での知識や技術を習得する。												
授 業 計 画													
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。				第16回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。					
第2回	テーマ設定①	自身が研究したいテーマについて考える。				第17回	卒業研究指導	卒業研究の進捗確認。 それぞれの進捗状況に応じて個別での指導を行う。 随時グループでのディスカッションを行いそれぞれのテーマを深めていく。					
第3回	テーマ設定②	自身が研究したいテーマについて考える。				第18回	卒業研究指導						
第4回	研究計画	それぞれの研究についての計画を策定				第19回	卒業研究指導						
第5回	文献の調べ方	論文に必要な文献の調べ方について学				第20回	卒業研究指導						
第6回	グループディスカッション①	それぞれのテーマに関してのディスカッションを行う。 リサーチクエスチョン・仮説を立てその内容を議論していく。				第21回	卒業研究指導						
第7回	グループディスカッション②					第22回	卒業研究指導						
第8回	グループディスカッション③					第23回	卒業研究指導						
第9回	グループディスカッション④					第24回	卒業研究指導						
第10回	グループディスカッション⑤					第25回	卒業研究指導						
第11回	卒業研究指導	卒業研究の進捗確認。				第26回	卒業研究指導						
第12回	卒業研究指導					第27回	卒業研究指導						
第13回	卒業研究指導					第28回	卒業研究指導						
第14回	卒業研究指導					第29回	卒業研究指導						
第15回	まとめ	これまでのまとめ・進捗確認。				第30回	卒業研究成果報告会				各自が行った卒業研究の内容を報告・発表する。		
授業方法(ゼミナール、7対1ブレインリング等)	PBL (問題解決型学習)	グループワーク	発表、ポスター作成										
評価方法及び評価基準	授業への参加度と卒業研究の内容で総合的に評価します。												
課題等	それぞれの卒業研究の進捗状況に応じて指示します。												
事前事後学修	文献の熟読や研究に必要な調査は各自で進めてもらいます。												
教材教科書参考書	研究テーマに応じて。												
留意点	卒業研究は学生自身がテーマを設定して取り組んでいくため、受け身ではなく積極的な姿勢で受講してください。												